

子育て支援に関する市民ニーズ調査 【小学生】 結果報告書

令和 6 年 6 月
京都市

目 次

I. 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査設計.....	1
3 回収結果.....	1
4 調査結果の見方.....	1
II. 調査結果.....	2
1 お子さまとご家族の状況について.....	2
2 お子さまのお父さん、お母さんの就労状況について.....	15
3 お子さまの病気・病後時の対応について.....	26
4 お子さまの宿泊を伴わない日中の一時預かりについて.....	32
5 お子さまの宿泊を伴う一時預かりについて.....	34
6 育児休業や短時間勤務制度の職場の両立支援制度について.....	37
7 子育て支援・相談などについて.....	46
8 自由記述.....	56
III. 参考資料(調査票).....	57

I. 調査の概要

1 調査の目的

市内在住の小学校児童の保護者を対象に、子育ての状況や子どもや子育て支援に関するご意見等をお聞かせいただき、今後の京都市の子育て支援施策の充実に向けた基礎資料とすることを目的に調査しました。

2 調査設計

対象	小学生の保護者 1,000 人
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査実施時期	令和 5 年 12 月 5 日～令和 6 年 1 月 31 日
調査方法	郵送により配布、回収（WEB 回答併用）

3 回収結果

調査対象者（配布数）	有効回答数	有効回答率
1,000 件	415 件	41.5%

4 調査結果の見方

- ①図中の「n」は、設問に対する回答者数のことを示します。
- ②回答比率（%）は回答者数（n）を 100% として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しました。四捨五入の結果、内訳の合計が計に一致しないことがあります。
- ③図表中に「MA%」の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問であり、回答比率（%）の計は 100.0% を超えます。
- ④図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合があります。
- ⑤図表の n 値が少ない場合、見方には注意が必要です。

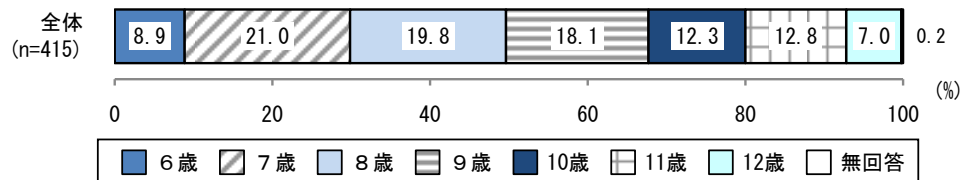
Ⅱ. 調査結果

1 お子さまとご家族の状況について

1. 子どもの年齢

問 1 宛名のお子さまの年齢をご回答ください。(令和5年10月1日現在)

【図1-1 子どもの年齢】

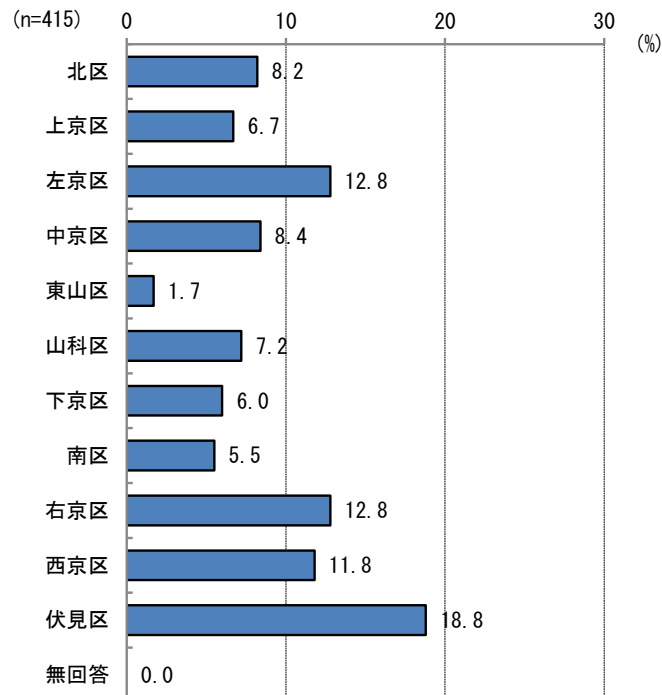


子どもの年齢は、「7歳」が21.0%と最も多く、次いで「8歳」が19.8%、「9歳」が18.1%、「11歳」が12.8%、「10歳」が12.3%となっています。(図1-1)

2. 居住区

問 2 お住まいの区をご回答ください。

【図1-2 居住区】



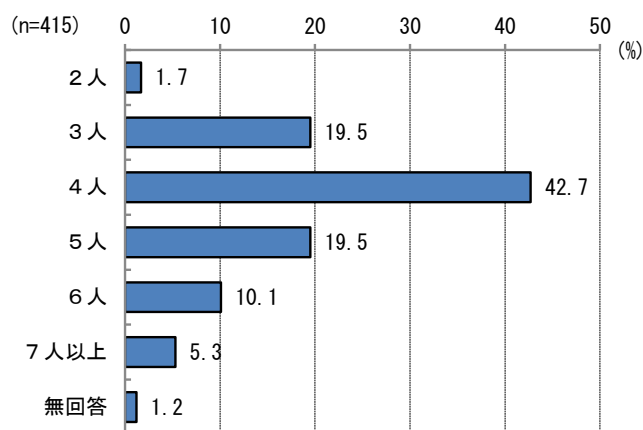
居住区は、「伏見区」が18.8%と最も多く、次いで「左京区」、「右京区」がそれぞれ12.8%、「西京区」が11.8%となっています。(図1-2)

3. 家族の人数

問3 家族の人数（ご自身や宛名のお子さまも含む。）をご回答ください。

①家族の人数

【図1-3① 家族の人数】

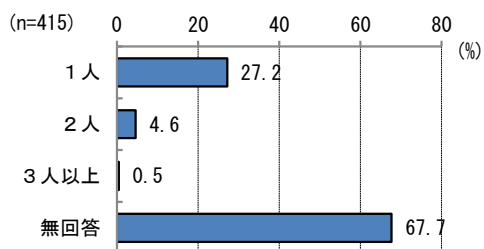


家族の人数は、「4人」が42.7%と最も多く、次いで「3人」、「5人」がそれぞれ19.5%となっています。（図1-3①）

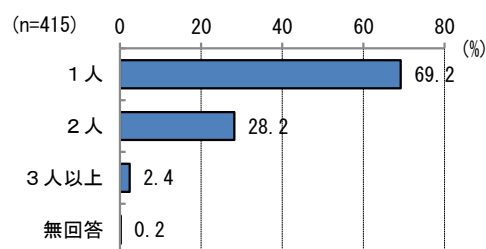
②子どもの人数

【図1-3② 子どもの人数】

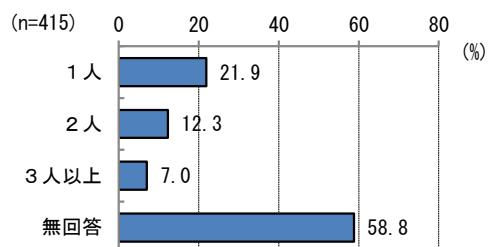
小学校入学前



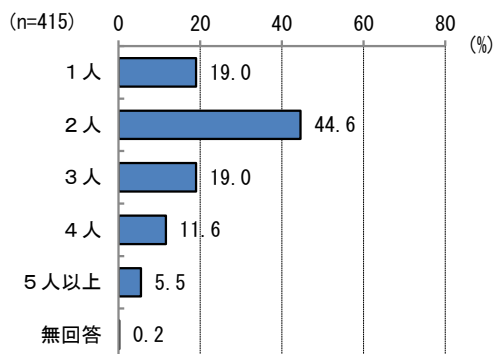
小学生



中学生以上



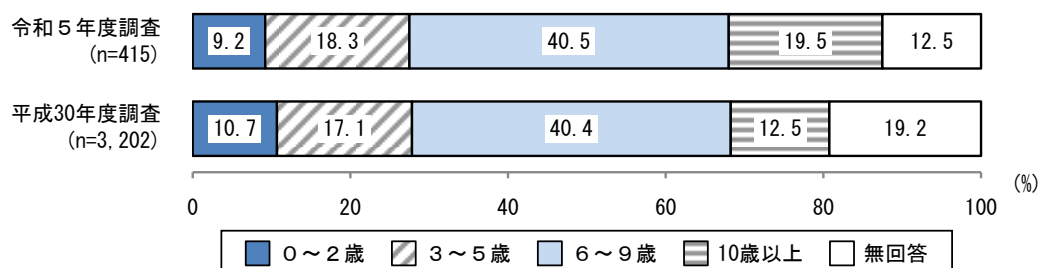
子どもの人数



子どもの人数は、「2人」が44.6%と最も多く、次いで「1人」、「3人」がそれぞれ19.0%となっています。（図1-3②）

③末子の年齢

【図1-3③ 末子の年齢】

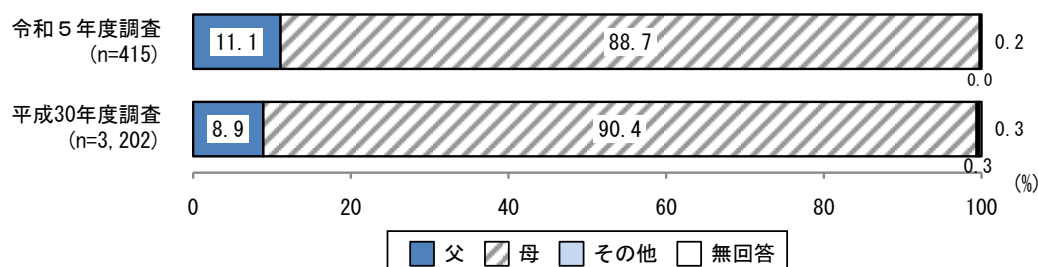


末子の年齢は、「6～9歳」が40.5%と最も多く、次いで「10歳以上」が19.5%、「3～5歳」が18.3%、「0～2歳」が9.2%となっています。（図1-3③）

4. 回答者の続柄

問4 この調査票を回答されている方はどなたですか（宛名のお子さまからみた関係）。（○は1つ）

【図1-4 回答者の続柄】

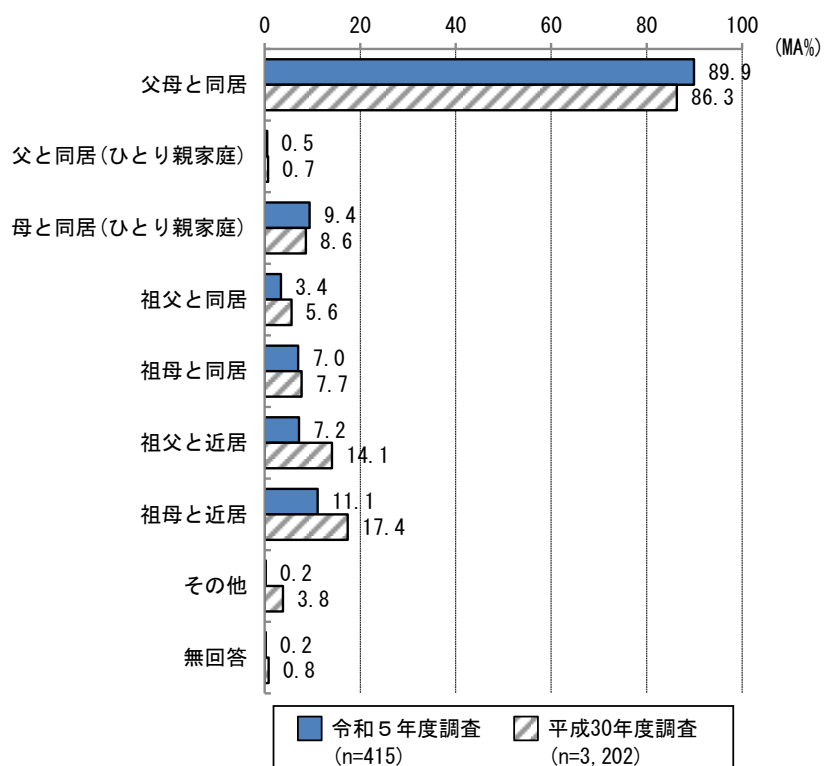


回答者の続柄は、「母」が88.7%、「父」が11.1%となっています。（図1-4）

5. 同居・近居の状況

問 5 (1) 宛名のお子さまとの同居・近居の状況についてご回答ください（宛名のお子さまからみた関係）。（複数回答可）

【図1-5 同居・近居の状況】



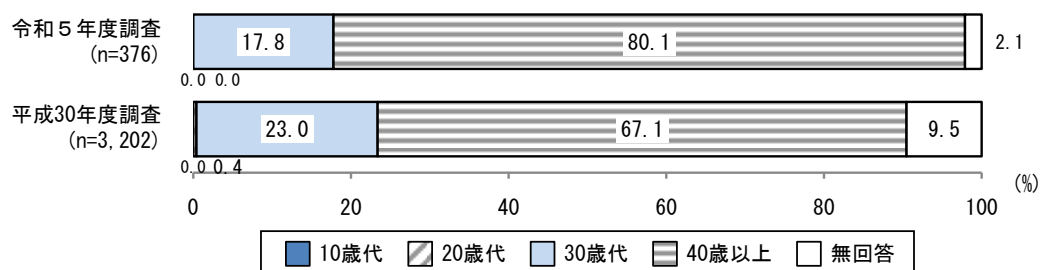
同居・近居の状況は、「父母と同居」が89.9%と最も多く、次いで「祖母と近居」が11.1%、「母と同居(ひとり親家庭)」が9.4%となっています。（図1-5）

6. 父母の年齢

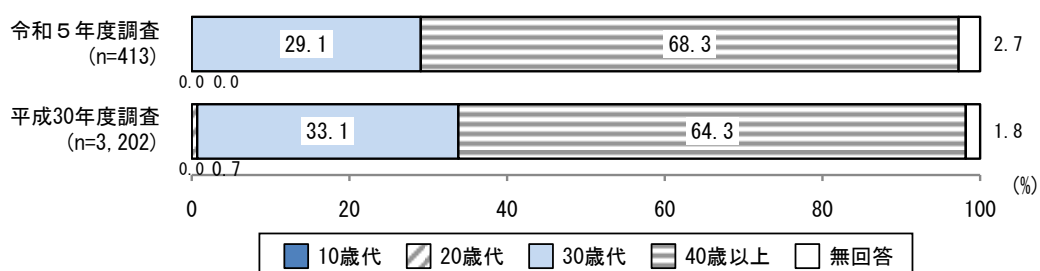
問5(2) 宛名のお子さまの父母の年齢をご回答ください。(令和5年10月1日現在)

【図1-6 父母の年齢の年齢】

父親



母親

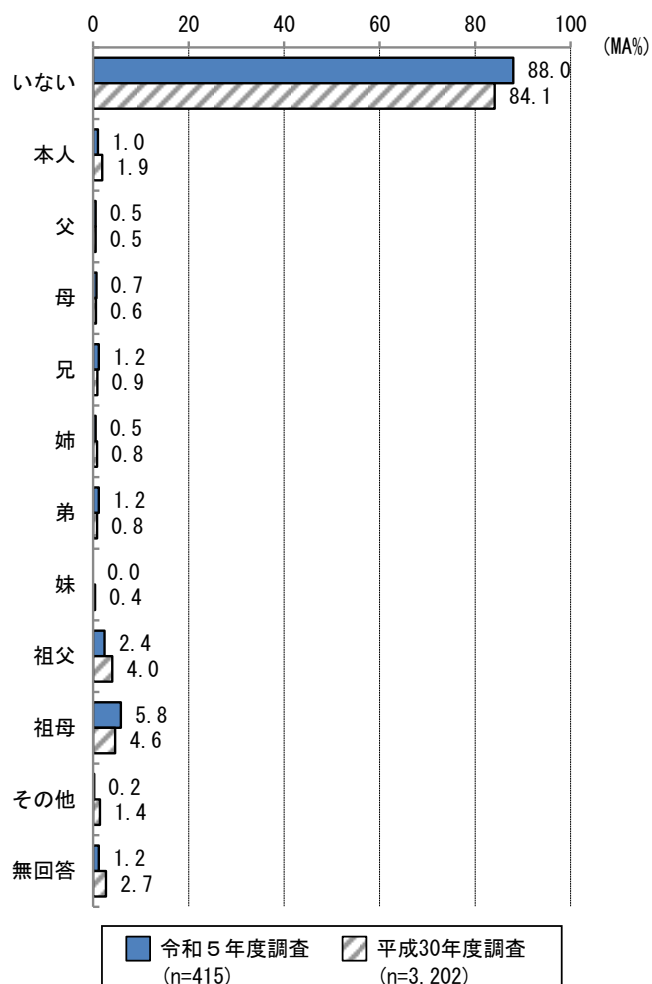


親の年齢は、父親母親とも「40歳以上」が最も多く、父親は80.1%、母親は68.3%となっています。(図1-6)

7. 看護・介護・支援が必要な同居者・近居者の続柄

問 6 同居・近居のご家族の中に、傷病等により看護が必要な方や、障害等により介護・支援が必要な方はおられますか（続柄は宛名のお子さまからみた関係）。（複数回答可）

【図1-7 看護・介護・支援が必要な同居者・近居者の続柄】

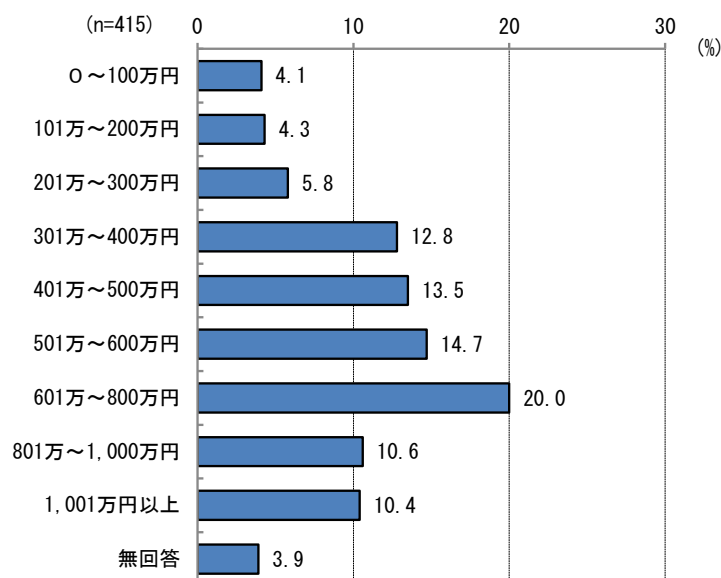


看護・介護・支援が必要な同居者・近居者の続柄は、「いない」が88.0%と最も多くなっています。いる人では「祖母」が5.8%、「祖父」が2.4%となっています。（図1-7）

8. 可処分所得

問 7 あなたの世帯の昨年 1 年間（令和 4 年 1 月 1 日～同年 12 月 31 日）の可処分所得（実収入から税金や社会保険料等を引いたいわゆる手取り収入）はおおよそどのくらいですか。（○は 1 つ）

【圖1-8 可処分所得】



可処分所得は、「601 万～800 万円」が 20.0%と最も多く、次いで「501 万～600 万円」が 14.7%、「401 万～500 万円」が 13.5%、「301 万～400 万円」が 12.8%、「801 万～1,000 万円」が 10.6%となっています。（図 1-8）

☐ 家族類型別

【表1-8-1 家族類型別 可処分所得】

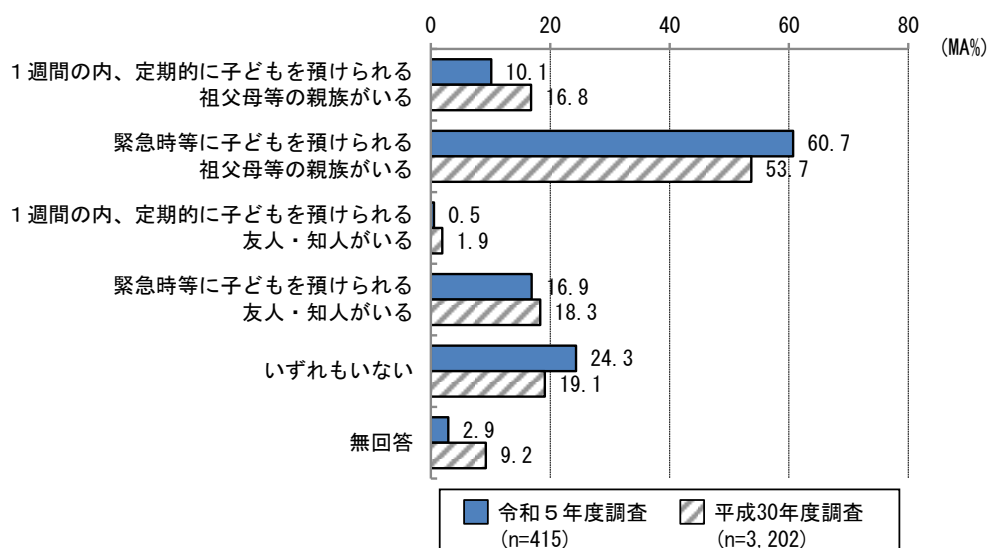
											(%)
	n	0 5 1 0 0 0 万円	1 0 1 万 5 2 0 0 万円	2 0 1 万 5 3 0 0 万円	3 0 1 万 5 4 0 0 万円	4 0 1 万 5 5 0 0 万円	5 0 1 万 5 6 0 0 万円	6 0 1 万 5 8 0 0 万円	8 0 1 万 5 1 0 0 万円	1 0 0 1 万円 以上	無 回 答
ひとり親	41	24.4	29.3	4.9	19.5	9.8	2.4	2.4	0.0	2.4	4.9
共働き（両親ともフルタイム）	134	0.7	2.2	6.0	9.0	9.0	18.7	27.6	11.2	14.2	1.5
フルタイム・パート	153	2.0	2.0	7.8	18.3	18.3	15.0	20.9	8.5	5.9	1.3
専業主婦（夫）	76	2.6	0.0	2.6	6.6	13.2	14.5	17.1	19.7	17.1	6.6
両親ともパート	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
両親とも無職	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	10	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	50.0

家族類型別にみると、“ひとり親”では「101万～200万円」が、“共働き（両親ともフルタイム）”と“フルタイム・パート”では「601万～800万円」が、“専業主婦（夫）”では「801万～1,000万円」がそれぞれ最も多くなっています。（表1-8-1）

9. 子どもを預けられる人

問 8 (1) 日頃、お子さまを預けられる人についてご回答ください。(複数回答可)。また、日常的に預けられている場合は、日数や時間帯をご回答ください(「9時～18時」のように24時間制で)。

【図1-9 子どもを預けられる人】



※「1週間の内、定期的に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」は、前回調査では「日常的に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」

※「1週間の内、定期的に子どもを預けられる友人・知人がいる」は、前回調査では「日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる」

子どもを預けられる人は、「緊急時等に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」が60.7%と最も多く、次いで「いずれもない」が24.3%、「緊急時等に子どもを預けられる友人・知人がいる」が16.9%となっています。(図1-9)

□家族類型別

【表1-9-1 家族類型別 子どもを預けられる人】

	n	等 ど の 親 族 が い ら る	1 週 間 の 内 、 定 期 的 に 母 子 を 預 け ら れ る	緊 急 時 等 に 子 ど も の 親 族 が い ら る	知 り あ い る 人 が い ら る	1 週 間 の 内 、 定 期 的 に 子 ど も を 預 け ら れ る	緊 急 時 等 に 子 ど も の 親 族 が い ら る	い ず れ も い な い	(%) 無 回 答
ひとり親	41	17.1	43.9	0.0	17.1	22.0	9.8		
共働き（両親ともフルタイム）	134	15.7	65.7	0.7	12.7	22.4	0.0		
フルタイム・パート	153	7.2	62.7	0.0	20.9	24.2	0.7		
専業主婦（夫）	76	2.6	61.8	0.0	17.1	31.6	0.0		
両親ともパート	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
両親とも無職	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		

家族類型別にみると、多くの類型で「緊急時等に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」の割合が最も高くなっています。（表 1-9-1）

□同居・近居の状況別

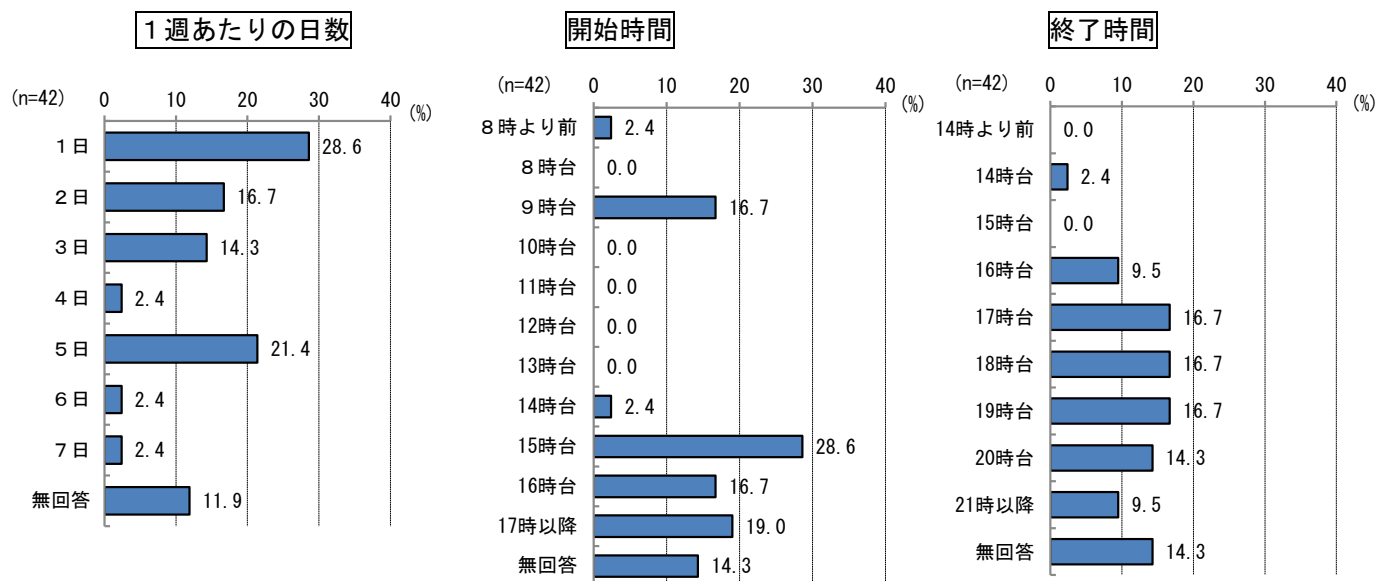
【表1-9-2 同居・近居の状況別 子どもを預けられる人】

	n	親 も 族 が い ら る	1 週 間 の 内 、 定 期 的 に 母 子 を 預 け ら れ る	緊 急 時 等 に 子 ど も の 親 族 が い ら る	が い る 人 が い ら る	1 週 間 の 内 、 定 期 的 に 子 ど も を 預 け ら れ る	緊 急 時 等 に 子 ど も の 親 族 が い ら る	い ず れ も い な い	(%) 無 回 答
父母と同居	373	9.4	62.7	0.5	16.9	24.7	1.9		
父と同居（ひとり親家庭）	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
母と同居（ひとり親家庭）	39	17.9	46.2	0.0	12.8	23.1	10.3		
祖父と同居	14	14.3	64.3	0.0	14.3	14.3	14.3		
祖母と同居	29	31.0	69.0	0.0	20.7	6.9	10.3		
祖父と近居	30	26.7	86.7	0.0	13.3	3.3	0.0		
祖母と近居	46	23.9	80.4	0.0	13.0	4.3	2.2		
その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

同居・近居の状況別にみると、“父と同居（ひとり親家庭）”以外の区分で「緊急時等に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる」の割合が最も高くなっています。（表 1-9-2）

祖父母等の親族に預けている日数・時間帯

【図1-9-3 祖父母等の親族に預けている1週あたりの日数・時間帯】



祖父母等の親族に預けている1週あたりの日数は、「1日」が28.6%と最も多くなっています。また、開始時間は「15時台」が、終了時間は「17時台」、「18時台」、「19時台」が多くなっています。(図1-9-3)

友人・知人に預けている日数・時間帯

【図1-9-4 友人・知人に預けている日数・時間帯1週あたりの日数・時間帯】

1 週あたり
の日数

(%)								
n	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	無 回 答
2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

開始時間

(%)												
n	8 時 よ り 前	8 時 台	9 時 台	1 0 時 台	1 1 時 台	1 2 時 台	1 3 時 台	1 4 時 台	1 5 時 台	1 6 時 台	1 7 時 以 降	無 回 答
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

終了時間

(%)										
n	1 4 時 よ り 前	1 4 時 台	1 5 時 台	1 6 時 台	1 7 時 台	1 8 時 台	1 9 時 台	2 0 時 台	2 1 時 以 降	無 回 答
2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0

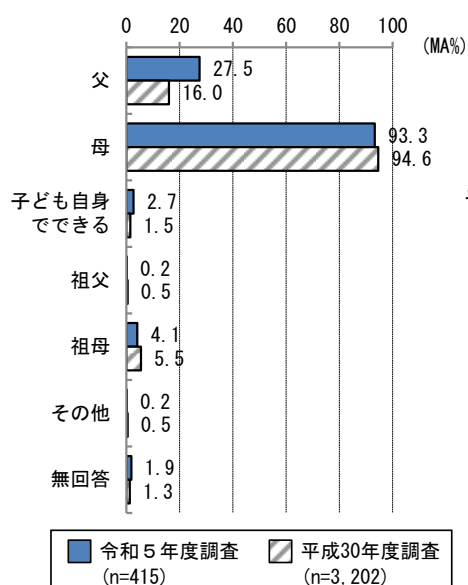
友人・知人に預けている1週あたりの日数は、「2日」が1件となっており、預ける開始時間は「17時以降」、終了時間は「19時台」と回答しています。(表1-9-4)

10. 主に育児や家事等に関わっている方

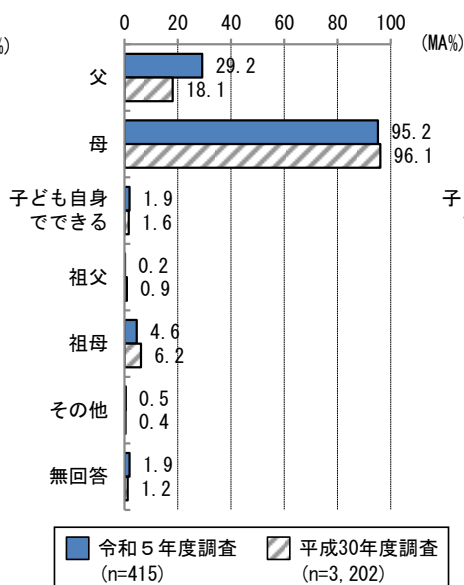
問9 宛名のお子さまの育児や家事等に主に関わっている方はどなたですか。(複数回答可)

【図1-10-1 主に育児や家事等に関わっている方】

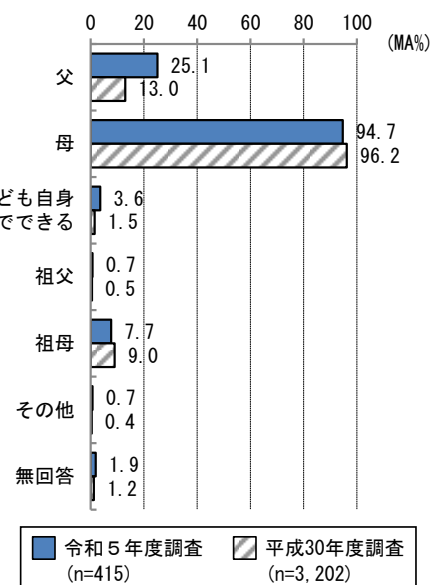
①洗濯をする



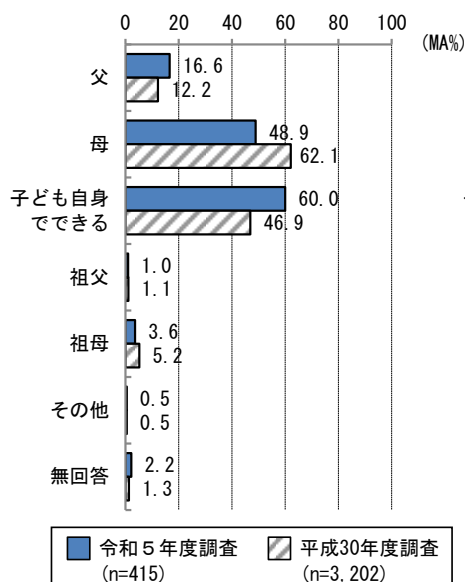
②食料品等の日常的な 買い物をする



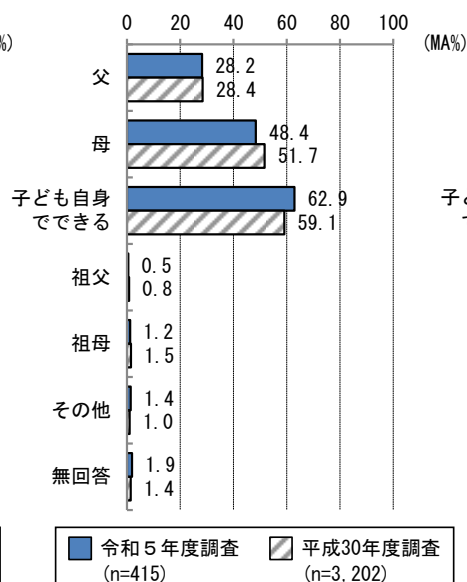
③家族や子どもの食事をつくる



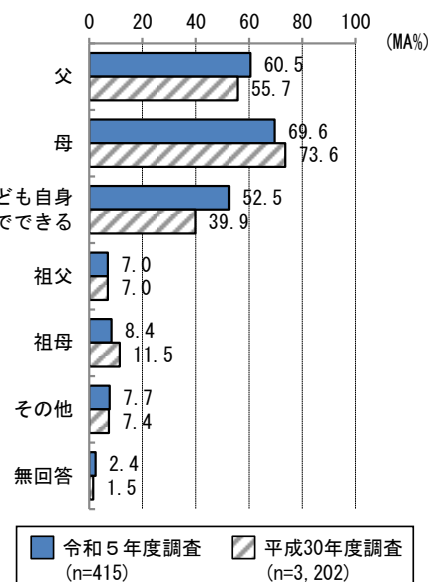
④子どもに食事を食べさせる



⑤子どもを風呂に入れる

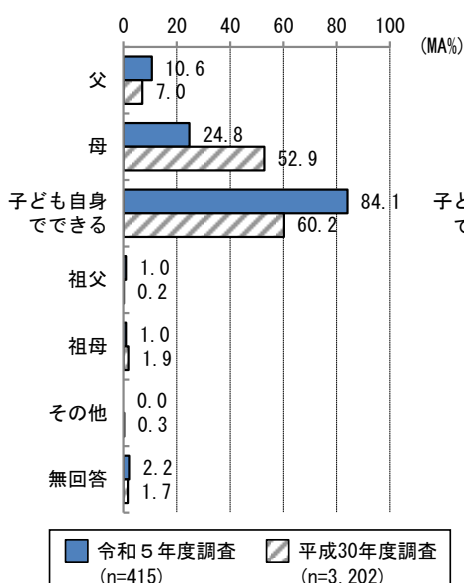


⑥子どもと遊ぶ

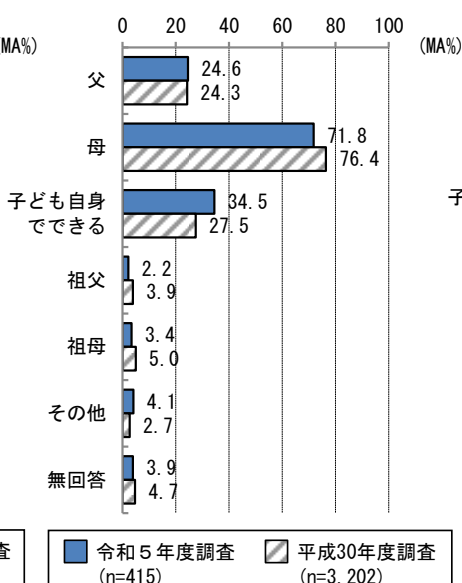


【図1-10-2 主に育児や家事等に関わっている方】

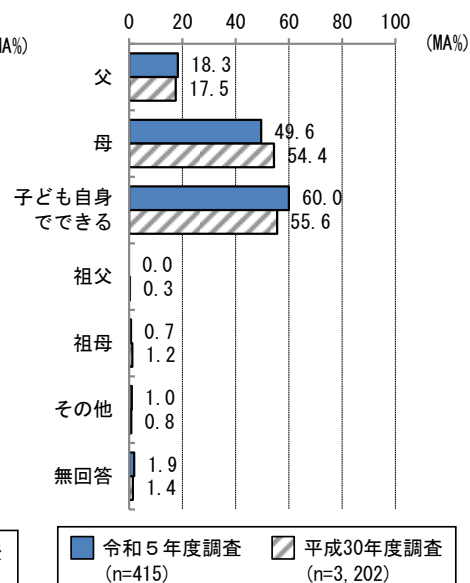
⑦子どもの着替え



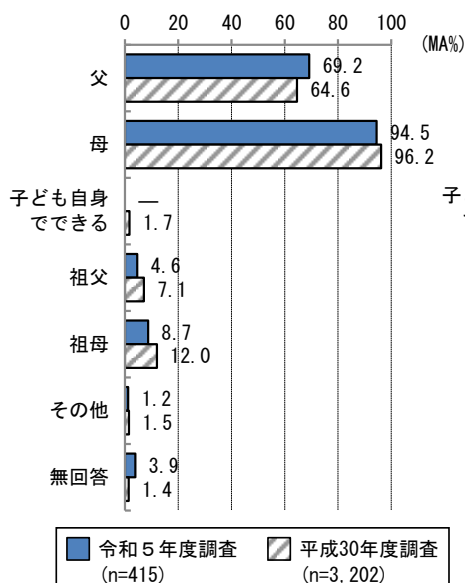
⑧学童クラブ・放課後等デイサービス等や
習い事、塾等の送り迎えをする



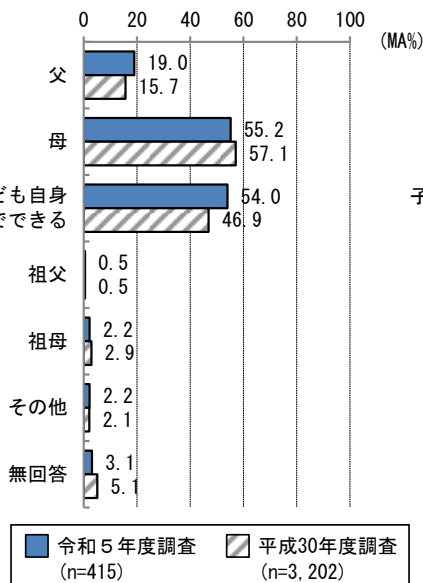
⑨子どもを寝かしつける



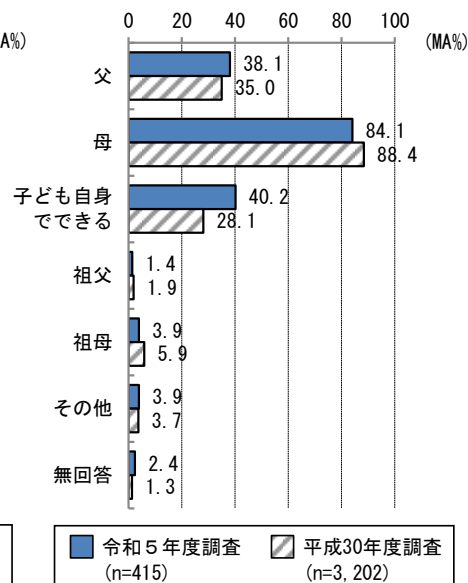
⑩子どもをしつける



⑪子どもに本を読み聞かせる



⑫子どもの宿題や勉強をみる

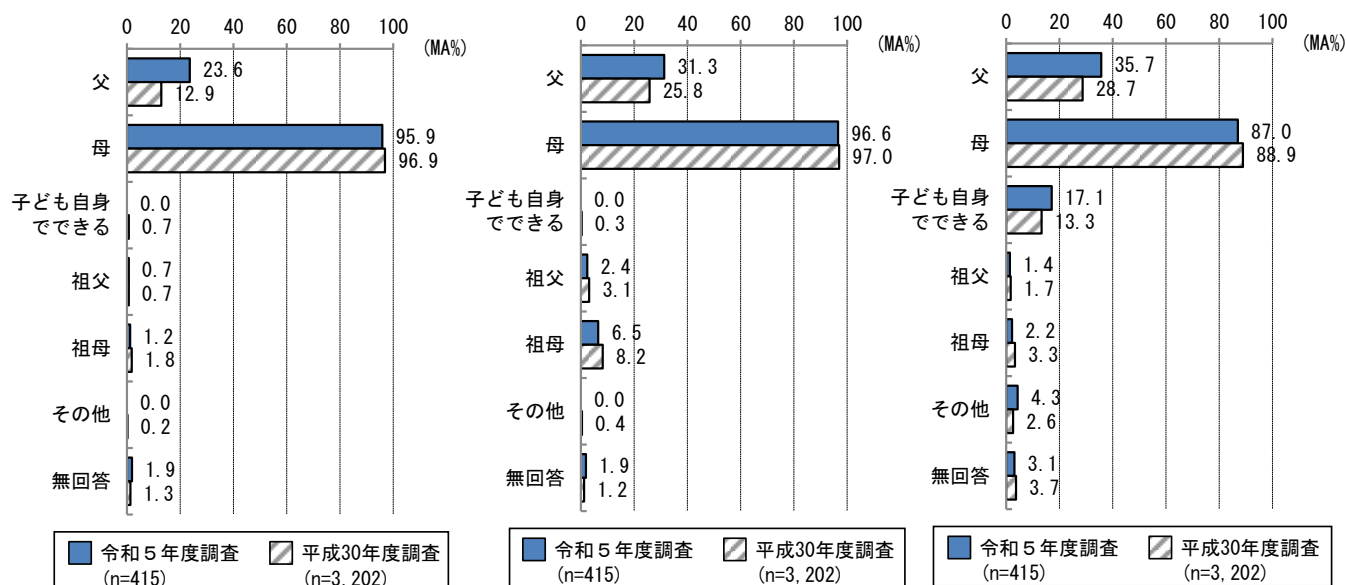


【図1-10-3 主に育児や家事等に関わっている方】

⑬予防接種や健診に連れていく

⑭子どもが病気の際に看病したり病院に連れて行ったりする

⑮子ども会や子育てサークル、町内会や地蔵盆等の子どもに関する地域活動に参加する



育児や家事等に主に関わっている人を見ると、すべての項目で「母」の割合が最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「父」の割合は〔⑤子どもを風呂に入れる〕を除く項目で、前回調査より高くなっており、〔③家族や子どもの食事をつくる〕は12.1ポイント、〔①洗濯をする〕は11.5ポイント、〔②食料品等の日常的な買い物をする〕は11.1ポイント、〔⑬予防接種や健診に連れていく〕は10.7ポイント高くなっています。(図1-10-1～3)

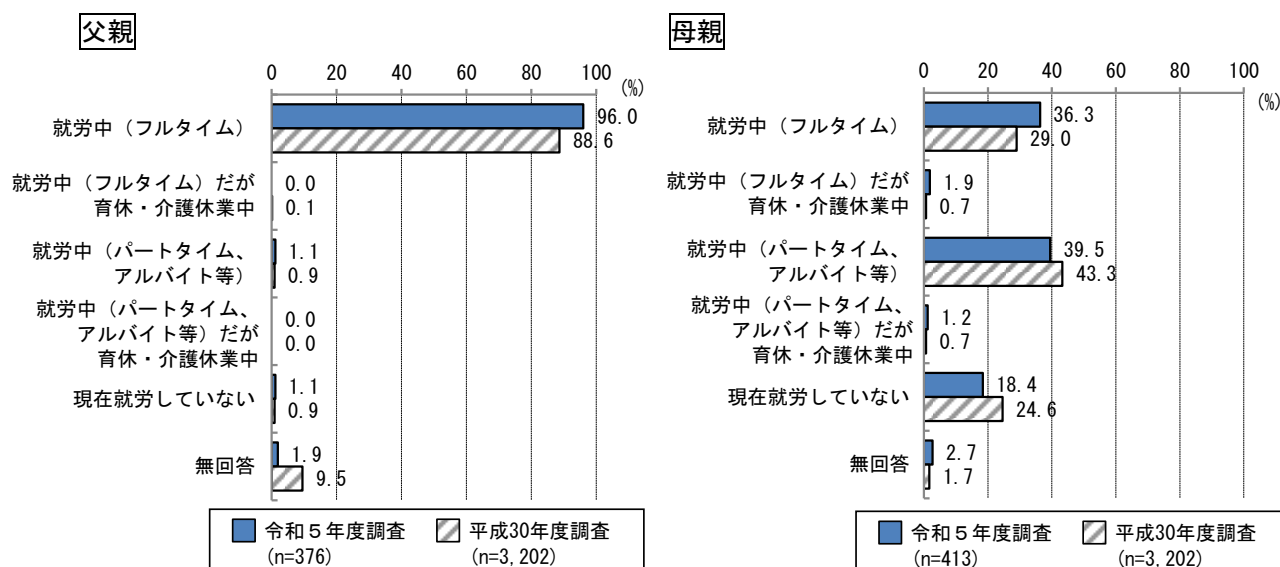
2 お子さまのお父さん、お母さんの就労状況について

1. 保護者の就労状況

問 10(1) 父親・母親それぞれの現在の就労状況（自営業、家族従事者含む。）について、「1～5」の中からお選びください。（○はそれぞれ1つずつ）
 就労している方は、[] に数字（時刻の場合は「18 時頃」のように 24 時間制で）をご回答ください。

①父親・母親の就労状況

【図2-1① 父親・母親の就労状況】



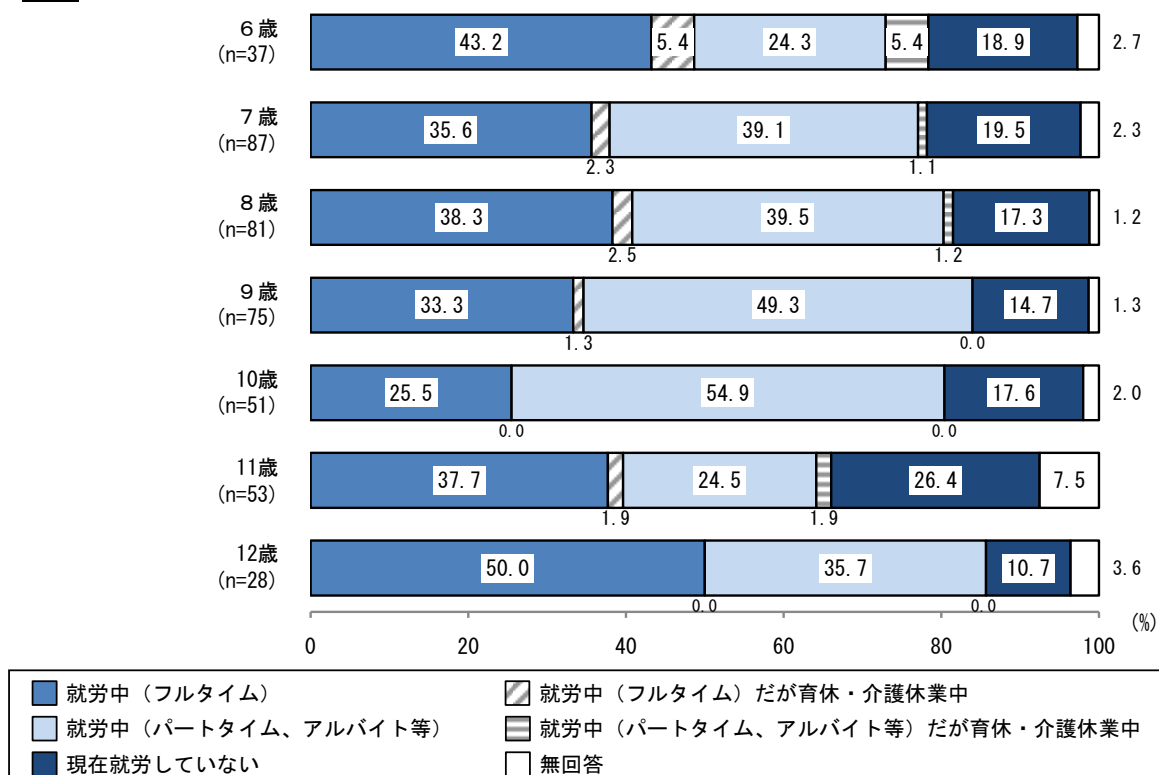
保護者の就労状況は、父親は「就労中（フルタイム）」（96.0%）が、母親は「就労中（パートタイム、アルバイト等）」（39.5%）が最も多くなっています。

前回調査と比較すると、母親は「現在就労していない」が6.2ポイント低く、「就労中（フルタイム）」が7.3ポイント高くなっています。（図2-1①）

□子どもの年齢別

【図2-1①-1 子どもの年齢別 母親の就労状況】

母親

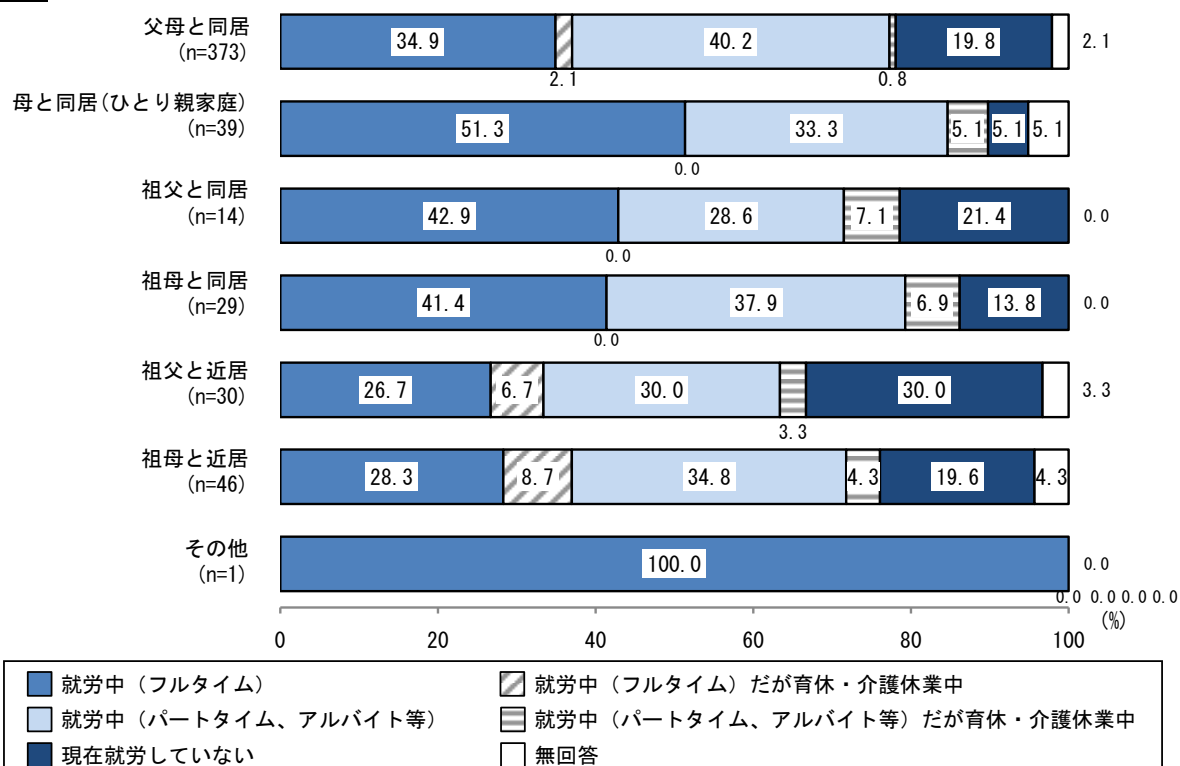


母親の就労状況を子どもの年齢別にみると、“6歳”“11歳”“12歳”では「就労中（フルタイム）」が、“7歳”“8歳”“9歳”“10歳”は「就労中（パートタイム、アルバイト等）」が多くなっています。（図2-1①-1）

□同居・近居の状況別

【図2-1①-2 同居・近居の状況別 母親の就労状況】

母親

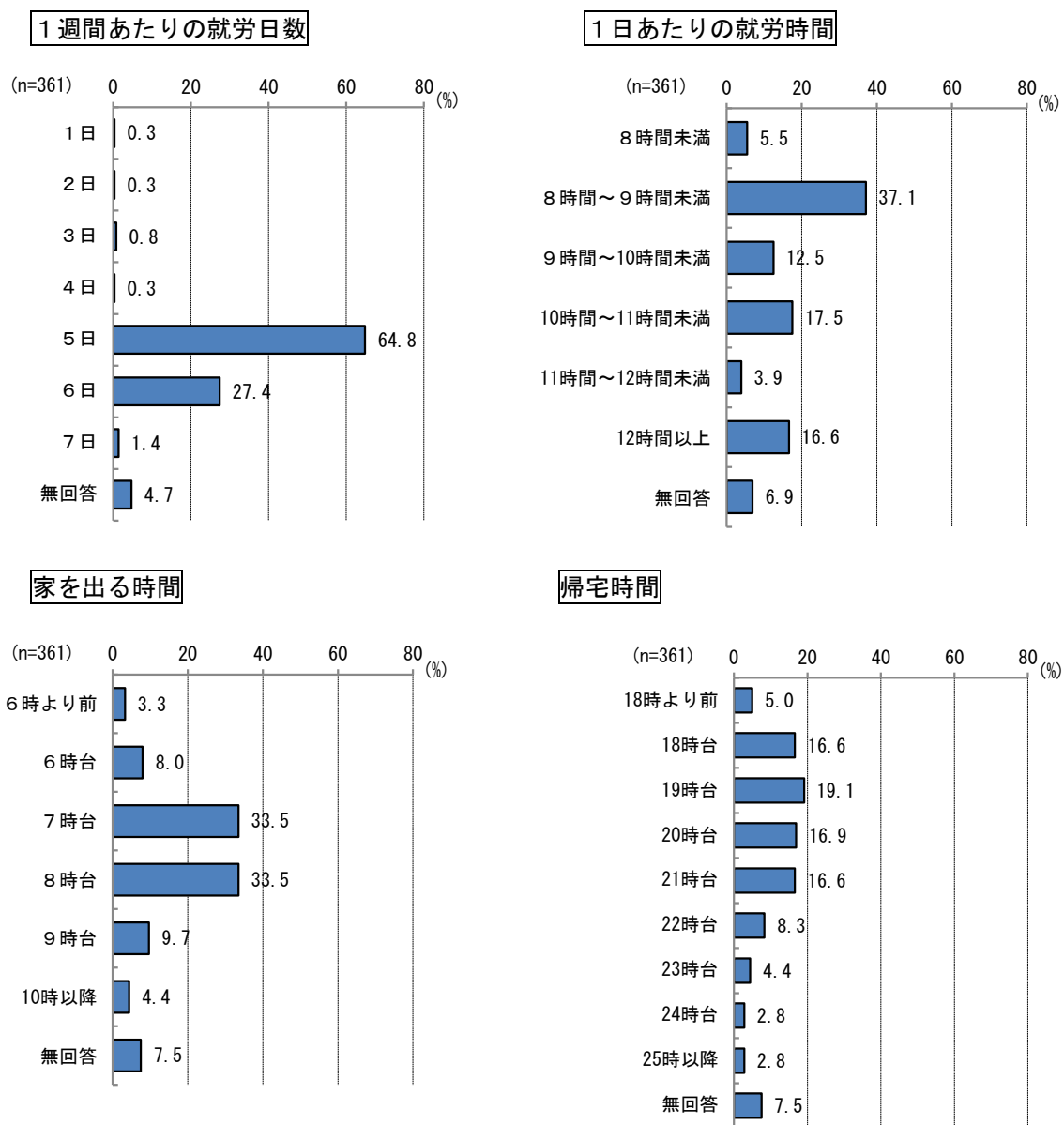


同居・近居の状況別にみると、“母と同居（ひとり親家庭）”で「就労中（フルタイム）」の割合が他の区分よりも高くなっています。（図 2-1①-2）

②フルタイムでの平均的な就労状況

父親

【図2-1②-1 父親のフルタイムでの平均的な就労状況】

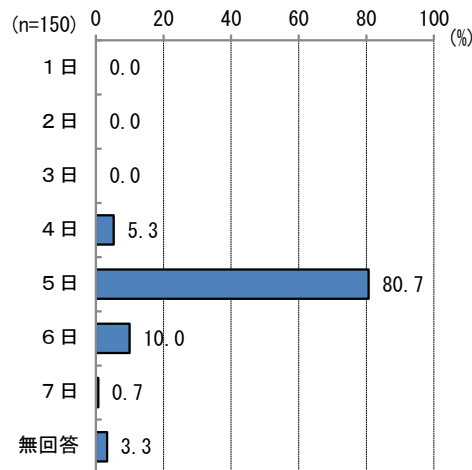


フルタイムで働いている父親の1週間あたりの就労日数は「5日」が、1日あたりの就労時間は「8時間～9時間未満」が最も多くなっています。また、家を出る時間は「7時台」「8時台」が、帰宅時間は「19時台」が最も多くなっています。(図2-1②-1)

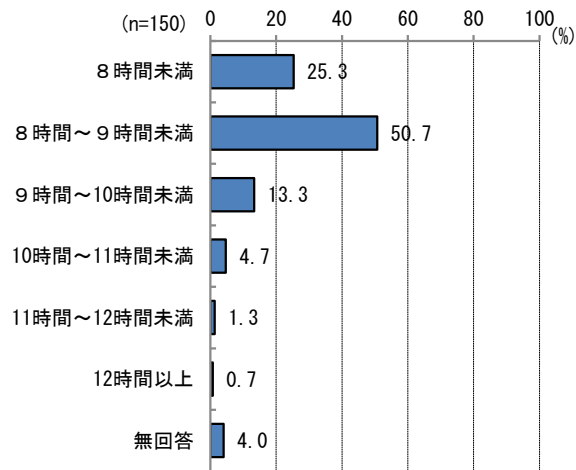
母親

【図2-1②-2 母親のフルタイムでの平均的な就労状況】

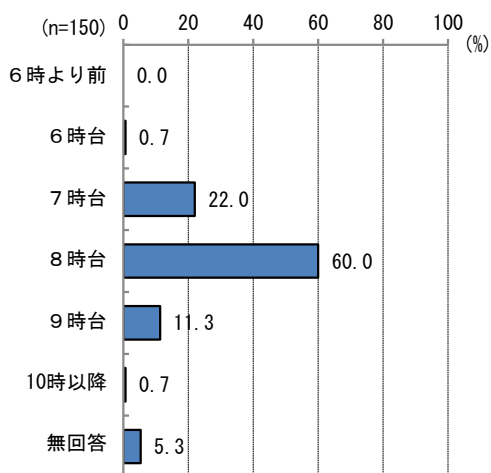
1週間あたりの就労日数



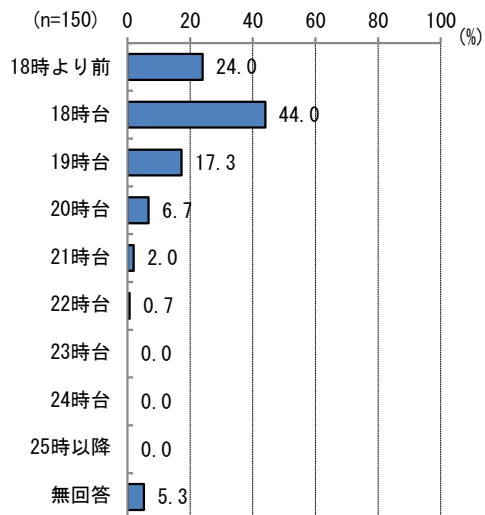
1日あたりの就労時間



家を出る時間



帰宅時間



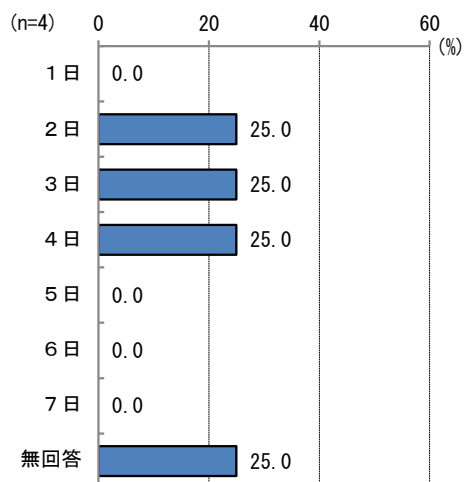
フルタイムで働いている母親の1週間あたりの就労日数は「5日」が、1日あたりの就労時間は「8時間～9時間未満」が最も多くなっています。また、家を出る時間は「8時台」が、帰宅時間は「18時台」が最も多くなっています。(図 2-1②-2)

③パートタイムでの平均的な就労状況

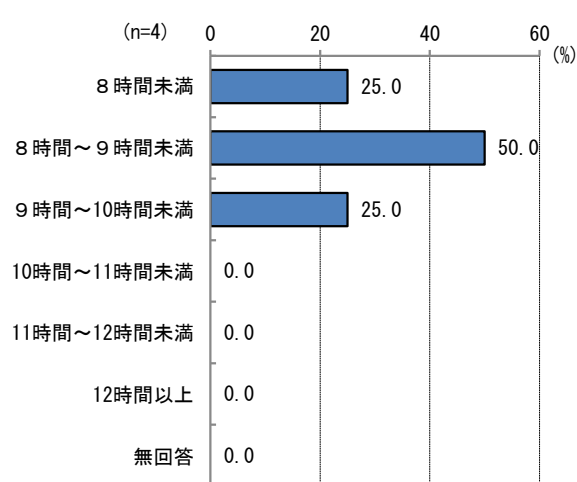
父親

【図2-1③-1 父親のパートタイムでの平均的な就労状況】

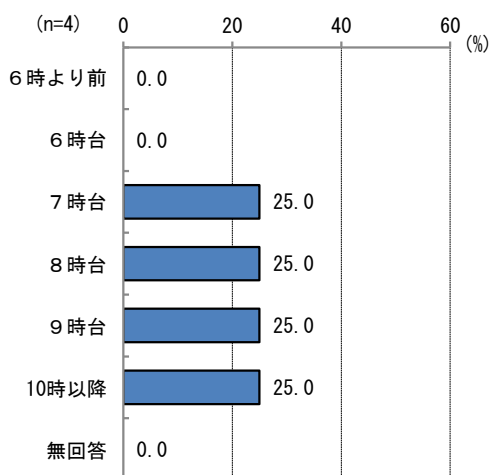
1週間あたりの就労日数



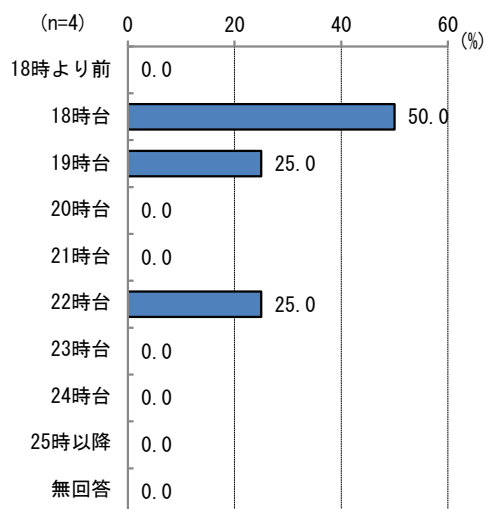
1日あたりの就労時間



家を出る時間



帰宅時間

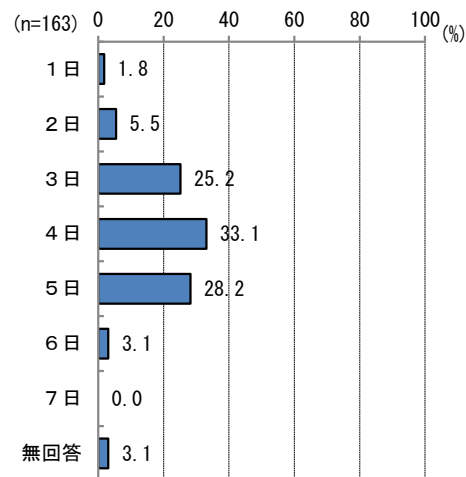


パートタイムで働いている父親の、1日あたりの就労時間は「8時間～9時間未満」が多くなっています。また帰宅時間は「18時台」が多くなっています。(図2-1③-1)

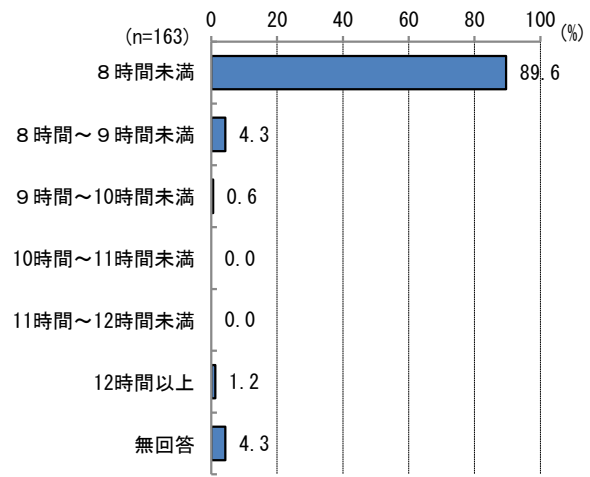
母親

【図2-1③-2 母親のパートタイムでの平均的な就労状況】

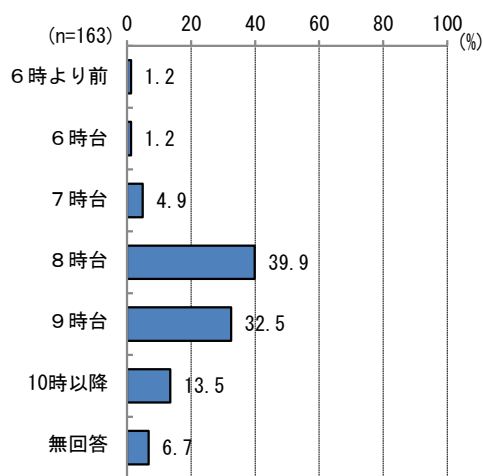
1週間あたりの就労日数



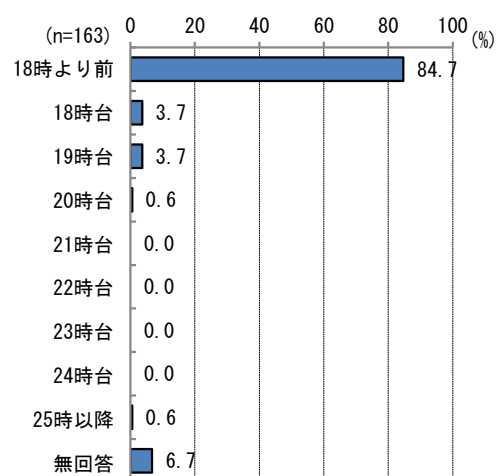
1日あたりの就労時間



家を出る時間



帰宅時間



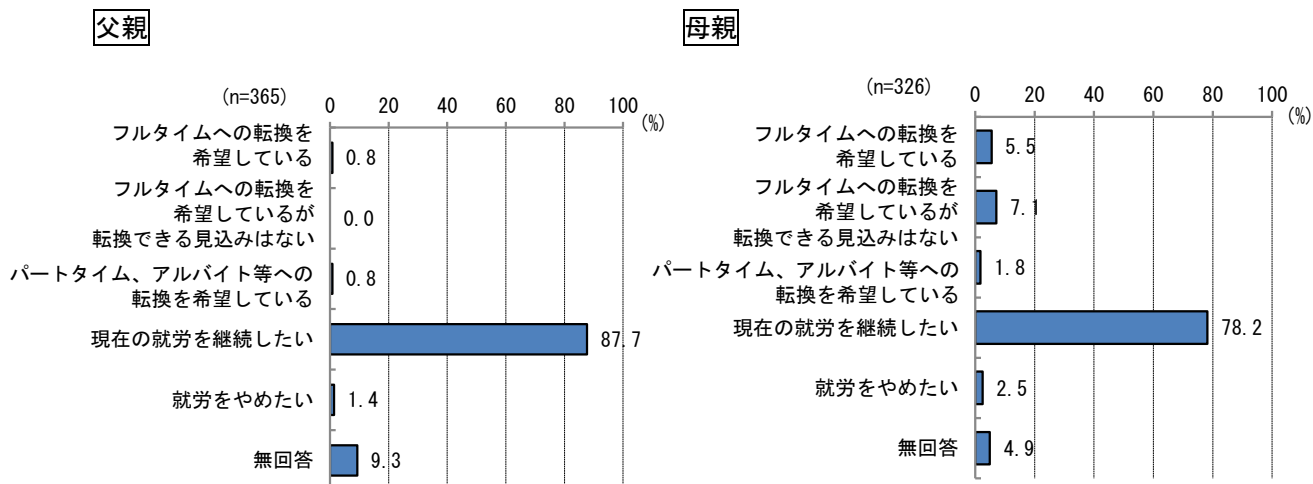
パートタイムで働いている母親の1週間あたりの就労日数は「4日」が、1日あたりの就労時間は「8時間未満」が最も多くなっています。また、家を出る時間は「8時台」が、帰宅時間は「18時より前」が最も多くなっています。(図2-1③-2)

2. 父親・母親のフルタイムまたはパートタイム等への転換希望

《問10(1)で「1～4」と答えた方にうかがいます。》

問10(2) フルタイムまたはパートタイム等への転換希望はありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

【図2-2 父親・母親のフルタイムまたはパートタイム等への転換希望】



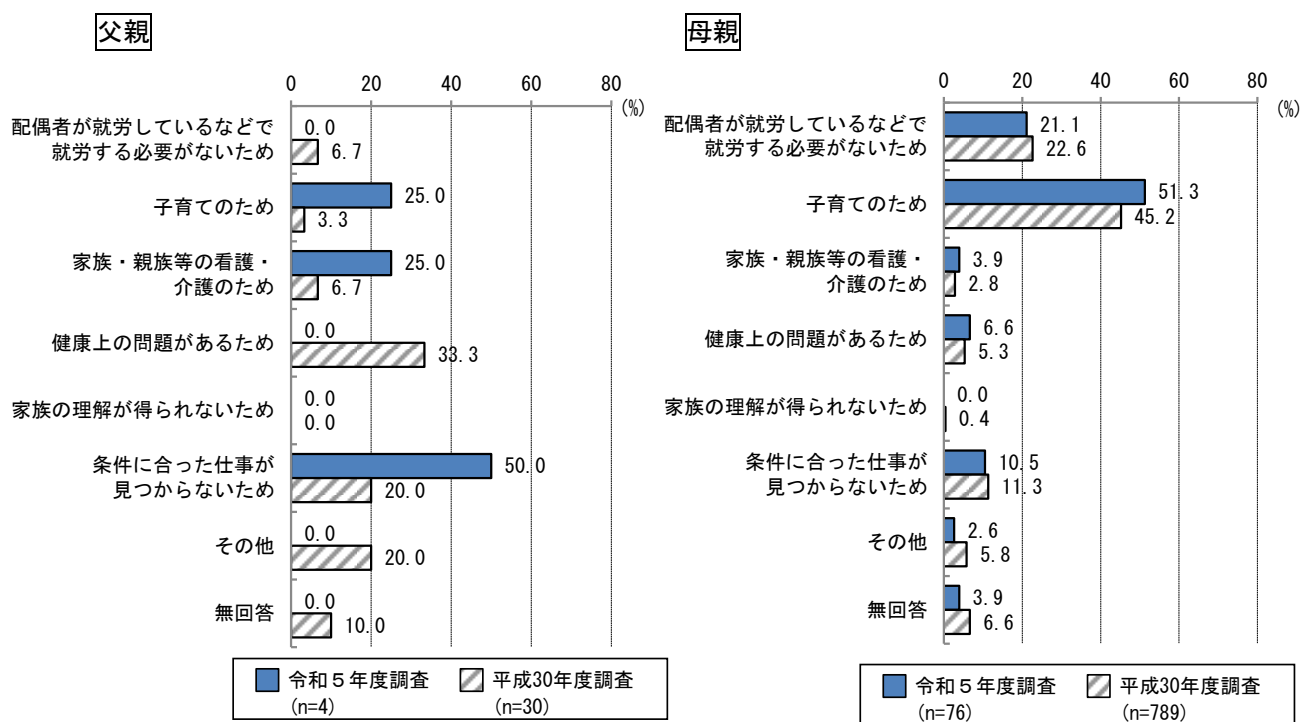
フルタイムまたはパートタイム等への転換希望は、父親・母親とも「現在の就労を継続したい」が最も多く、父親が87.7%、母親が78.2%となっています。(図2-2)

3. 父親・母親が現在就労していない理由

「問10(1)で「5」と答えた方にうかがいます。」

問10(3) 現在就労していない主な理由は何ですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

【図2-3 父親・母親が現在就労していない理由】



現在就労していない理由について、父親は「条件に合った仕事が見つからないため」が、母親は「子育てのため」がそれぞれ最も多くなっています。(図 2-3)

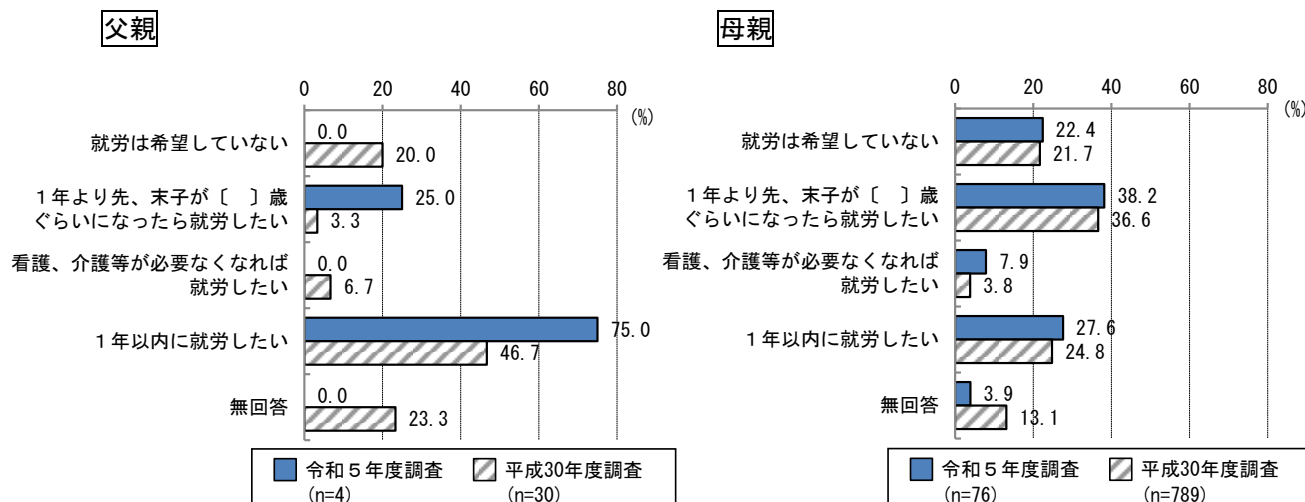
4. 父親・母親の就労希望の有無

《問10(1)で「5」と答えた方にうかがいます。》

問10(4) 現在就労していない方は今後、就労を希望していますか。(〇はそれぞれ1つずつ) あわせて、[] に数字をご回答ください。

①就労希望の有無

【図2-4① 就労希望の有無】



就労を希望する末子の年齢

【表2-4①-1 就労を希望する末子の年齢】

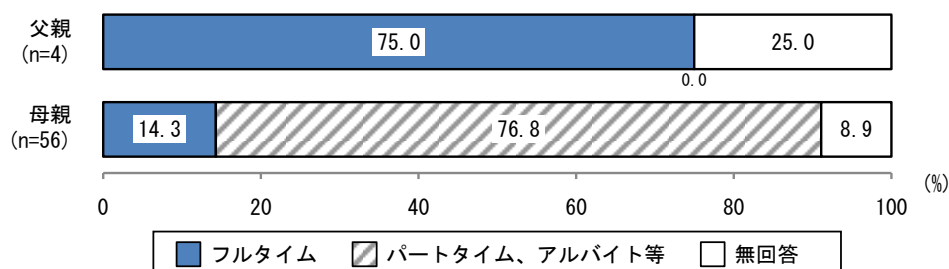
	調査数	0歳 ～ 1歳	2歳 ～ 3歳	4歳 ～ 5歳	6歳 ～ 7歳	8歳 ～ 9歳	10歳 ～ 11歳	12歳 ～ 13歳	14歳 ～ 15歳	16歳 ～ 17歳	18歳 以上	無回答
父親	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
母親	29	-	6.9	10.3	34.5	3.4	10.3	20.7	3.4	3.4	-	6.9

現在就労していない方の就労希望の有無は、母親では「1年より先、末子が[]歳ぐらいになったら就労したい」が38.2%で最も多くなっています。(図2-4①)

1年より先で就労したい人が末子が何歳になったら働きたいかについて、母親は「6歳～7歳」が34.5%で最も多くなっています。(表2-4①-1)

②希望する就労形態

【図2-4② 希望する就労形態】

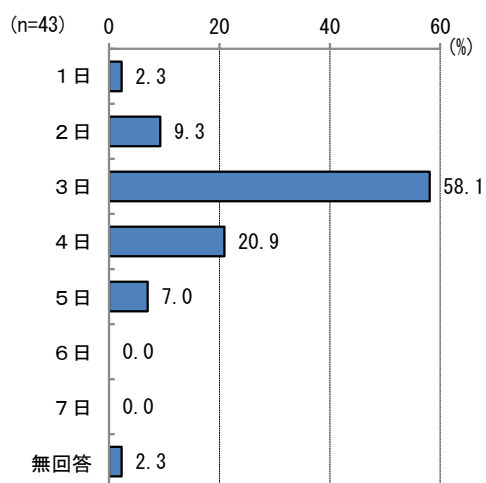


*パートタイム、アルバイトでの就労を希望する方

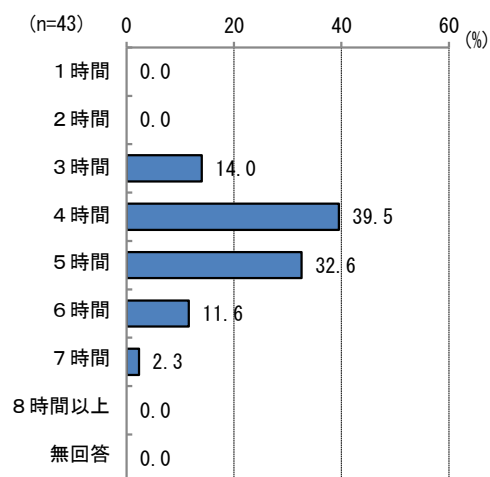
【図2-4②-1 希望する就労日数・時間(パートタイム・アルバイト)】

母親

1週あたりの就労日数



1日あたりの就労時間



働きたい人が希望する就労形態について、母親は「パートタイム、アルバイト等」が76.8%となっています。(図2-4②)

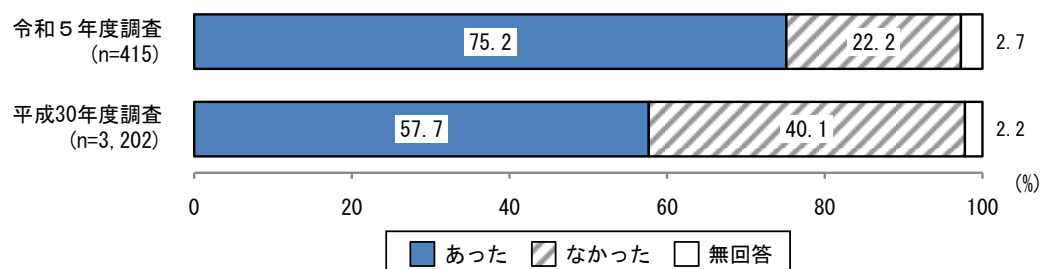
母親が希望する1週あたりの就労日数は「3日」(58.1%)が、1日あたりの就労時間は「4時間」(39.5%)が最も多くなっています。(図2-4②-1)

3 お子さまの病気・病後時の対応について

1. 病気や病気の回復期等で学校を休まなければならなかったこと

問11(1) この1年間に、宛名のお子さまが病気や病気の回復期であるために、学校を休まなければならなかったことはありましたか。(○は1つ)

【図3-1 病気や病気の回復期等で学校を休まなければならなかったこと】



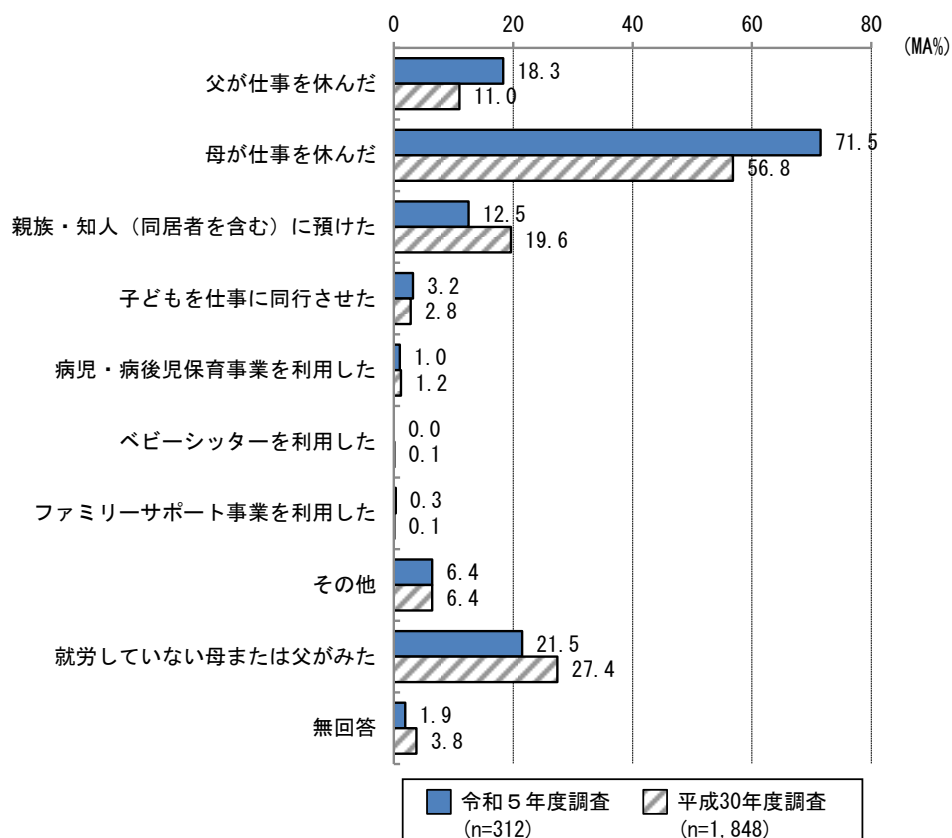
子どもが病気や病気の回復期等で学校を休まなければならなかったことは、「あった」が75.2%、「なかった」が22.2%となっています。(図3-1)

2. 学校を休んだときの対処方法

《問11(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問11(2) この1年間の対処方法とそれぞれの日数をご回答ください。(複数回答可)

【図3-2 学校を休んだときの対処方法】



学校を休んだときの対処方法は、「母が仕事を休んだ」が71.5%と最も多く、次いで「就労していない母または父がみた」が21.5%、「父が仕事を休んだ」が18.3%となっています。
(図3-2)

□同居・近居の状況別

【表3-2-1 同居・近居の状況別 学校を休んだときの対処方法】

	n	父が仕事を休んだ	母が仕事を休んだ	含親族・知人（同居者を預けた）	子どもを仕事に同行させた	病児・病後児保育事業を利用した	ベビーシッターを利用した	ファミリーサポート事業を利用した	その他	就労していない母または父がみた	無回答
父母と同居	285	19.6	70.5	10.5	3.2	1.1	0.0	0.4	6.7	22.8	2.1
父と同居（ひとり親家庭）	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
母と同居（ひとり親家庭）	25	0.0	88.0	32.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0
祖父と同居	9	11.1	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1
祖母と同居	20	20.0	65.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	25.0	0.0
祖父と近居	24	20.8	54.2	12.5	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
祖母と近居	35	14.3	65.7	14.3	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	34.3	2.9
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

同居・近居の状況別にみると、“父と同居（ひとり親家庭）”以外は「母が仕事を休んだ」が多くなっています。（表3-2-1）

対処方法別の日数

【表3-2-2 学校を休んだときの対処方法別の日数】

	n	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上	無回答
父が仕事を休んだ	57	31.6	28.1	15.8	1.8	10.5	0.0	8.8	3.5
母が仕事を休んだ	223	13.0	11.2	18.8	4.0	19.7	1.3	25.6	6.3
親族・知人に預けた	39	10.3	20.5	28.2	5.1	12.8	2.6	12.8	7.7
子どもを仕事に同行させた	10	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
病児・病後児保育事業を利用した	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
ベビーシッターを利用した	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ファミリーサポート事業を利用した	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	20	15.0	30.0	5.0	0.0	10.0	0.0	25.0	15.0
就労していない母または父がみた	67	1.5	9.0	16.4	1.5	13.4	4.5	35.8	17.9

“父が仕事を休んだ”は「1日」（31.6％）が、“母が仕事を休んだ”は「7日以上」（25.6％）が、“親族・知人に預けた”は「3日」（28.2％）がそれぞれ最も多くなっています。

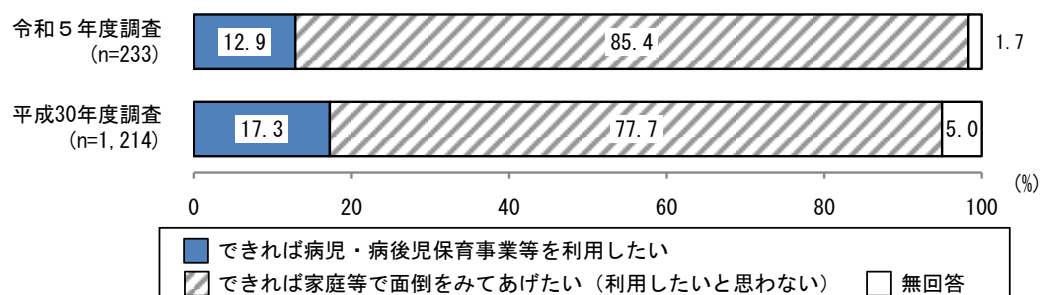
また、“就労していない母または父がみた”は「7日以上」（35.8％）が最も多くなっています。（表3-2-2）

3. 病児・病後児保育事業等の利用意向

《問11(2)で「1～4」と答えた方にうかがいます。》

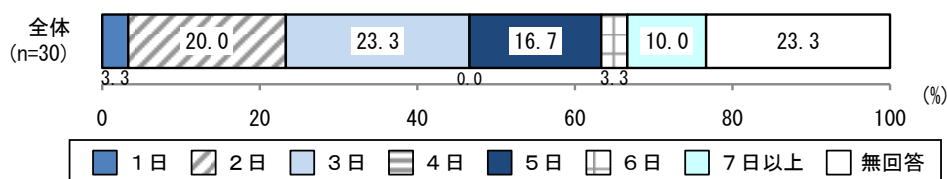
問11(3) その際、できれば病児・病後児保育事業等を利用したいと思いましたが。(○は1つ) また利用したい日数についてもご記入ください。

【図3-3 病児・病後児保育事業等の利用意向】



利用したい日数

【図3-3-1 病児・病後児保育事業等の希望利用日数】



病児・病後児保育事業等の利用意向は、「できれば病児・病後児保育事業等を利用したい」が12.9%、「できれば家庭等で面倒をみてあげたい（利用したいと思わない）」が85.4%となっています。(図3-3)

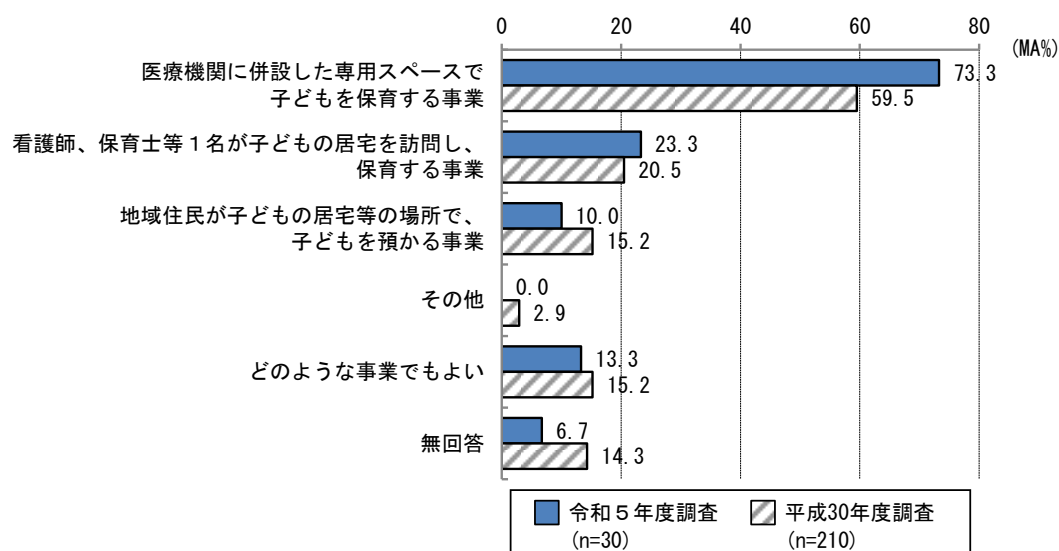
利用したい人の希望する日数は、「3日」が23.3%と最も多く、次いで「2日」が20.0%となっています。(図3-3-1)

4. 病気または病後の子どもを預ける場合に希望する事業

《問11(3)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問11(4) 病気または病後の子どもを預ける場合、どのような事業を希望しますか。(複数回答可)

【図3-4 病気または病後の子どもを預ける場合に希望する事業】



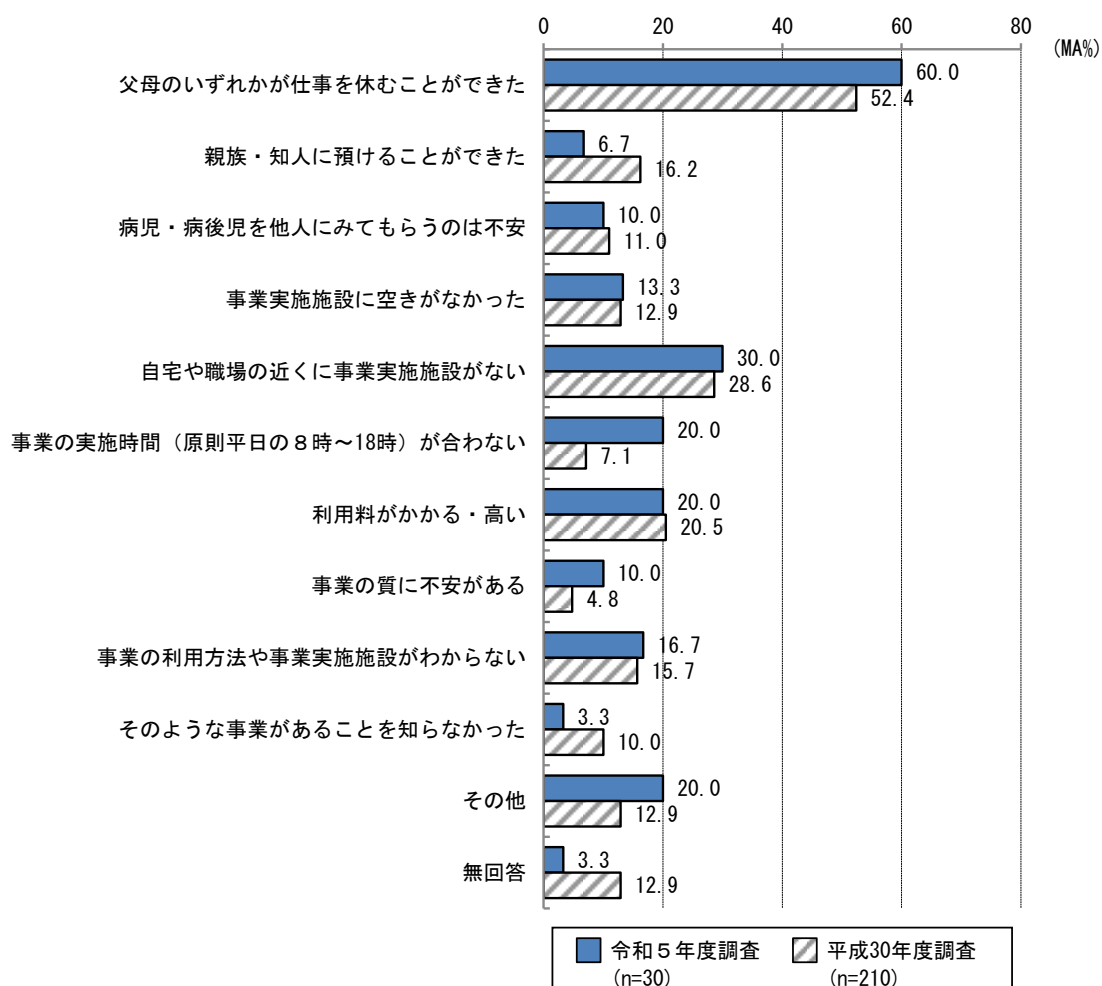
病気または病後の子どもを預ける場合に希望する事業は、「医療機関に併設した専用スペースで子どもを保育する事業」が73.3%と最も多く、次いで「看護師、保育士等1名が子どもの居宅を訪問し、保育する事業」が23.3%となっています。(図3-4)

5. 病児・病後児保育事業等を実際に利用しなかった理由

≪問11(3)で「1」と答えた方にうかがいます。≫

問11(5) 病児・病後児保育事業等を実際に利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

【図3-5 病児・病後児保育事業等を実際に利用しなかった理由】



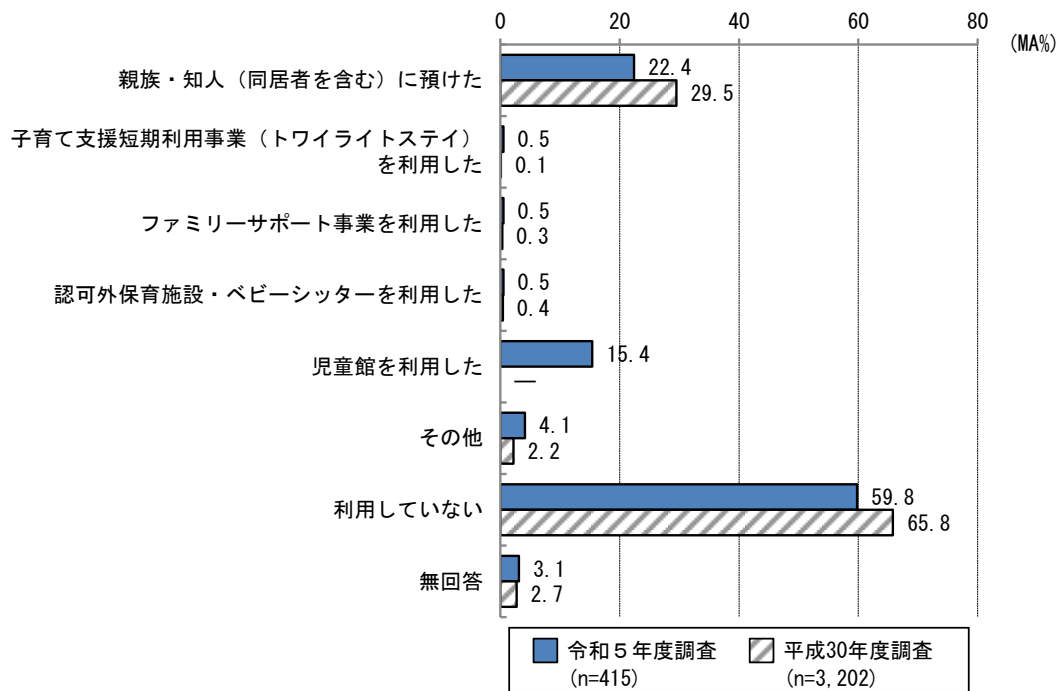
病児・病後児保育事業等を実際に利用しなかった理由は、「父母のいずれかが仕事を休むことができた」が60.0%と最も多く、次いで「自宅や職場の近くに事業実施施設がない」が30.0%、「事業の実施時間（原則平日の8時～18時）が合わない」、「利用料がかかる・高い」がそれぞれ20.0%となっています。（図3-5）

4 お子さまの宿泊を伴わない日中の一時預かりについて

1. 宿泊を伴わない日中の一時預かりの利用有無

問12(1) 宛名のお子さまについて、この1年間に、宿泊を伴わない日中の一時預かりを利用したことがありますか。(複数回答可)。利用したことがある場合は、()内にそれぞれの日数(半日程度でも1日とみなします)をご回答ください。

【図4-1 宿泊を伴わない日中の一時預かりの利用有無】



※「児童館を利用した」は、今回調査のみの選択肢。

一時預かり等の年間利用日数

【表4-1-1 宿泊を伴わない日中の一時預かりの年間利用日数】

	n	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上	(%) 無回答
親族・知人に預けた日数	93	17.2	10.8	18.3	3.2	7.5	3.2	31.2	8.6
子育て支援短期利用事業(トワイライトステイ)を利用した	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
ファミリーサポート事業を利用した	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
認可外保育施設・ベビーシッターを利用した	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
児童館を利用した	64	4.7	1.6	1.6	0.0	4.7	0.0	62.5	25.0
その他の方法で預けた	17	0.0	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	58.8	23.5

宿泊を伴わない日中の一時預かりの利用有無は、「利用していない」が59.8%と最も多く、次いで「親族・知人(同居者を含む)に預けた」が22.4%となっています。(図4-1)

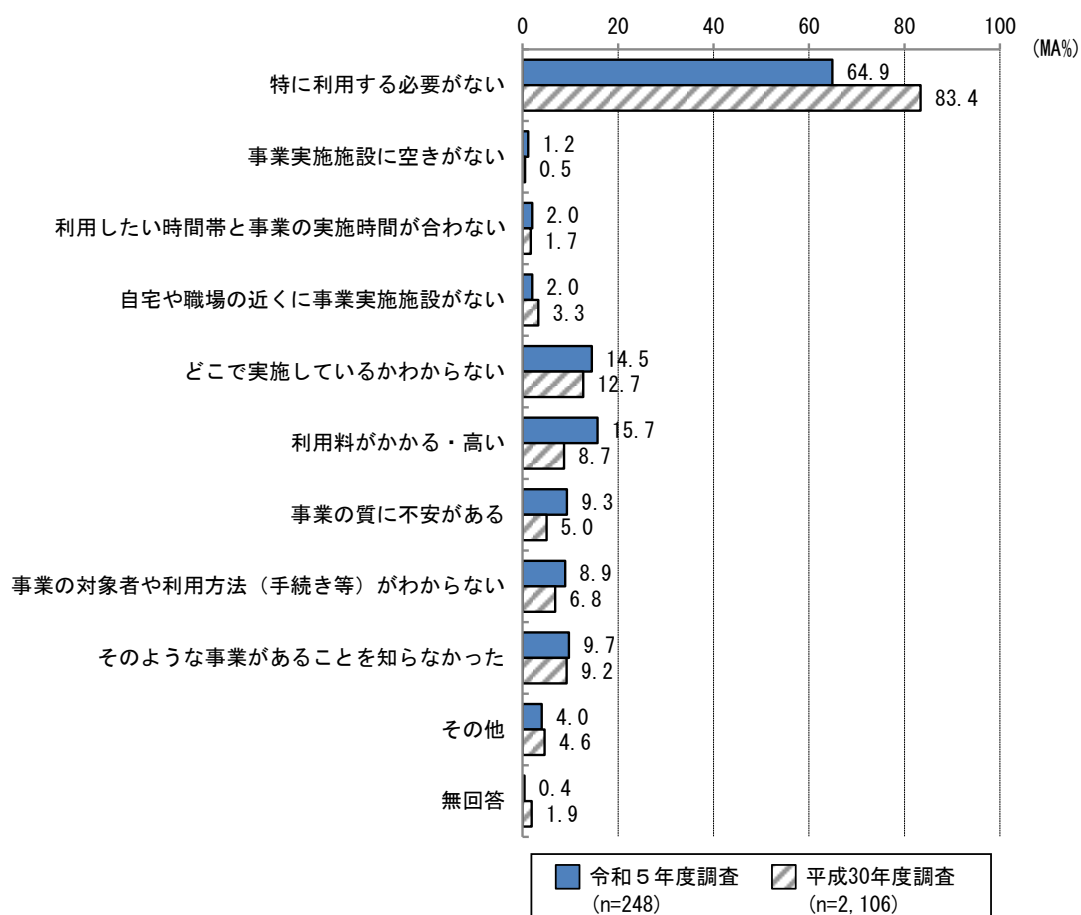
年間利用日数は、「親族・知人に預けた」と「児童館を利用した」は「7日以上」が最も多くなっています。(表4-1-1)

2. 一時預かりを利用していない理由

≪問12(1)で「7」と答えた方にうかがいます。≫

問12(2) 現在利用していない理由は何ですか。(複数回答可)

【図4-2 一時預かりを利用していない理由】



一時預かりを利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が64.9%と最も多く、次いで「利用料がかかる・高い」が15.7%、「どこで実施しているかわからない」が14.5%となっています。

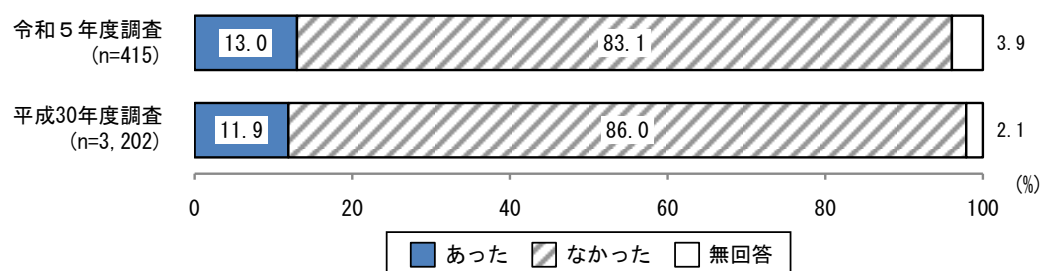
前回調査と比較すると、「特に利用する必要がない」は18.5ポイント低くなっています。
(図4-2)

5 お子さまの宿泊を伴う一時預かりについて

1. 泊まりがけで家族以外に預けようとしたことの有無

問13(1) 宛名のお子さまについて、この1年間に、泊まりがけで家族以外に預けようとしたこと（預け先が見つからなかった場合を含む。）はありましたか。（○は1つ）

【図5-1 泊まりがけで家族以外に預けようとしたことの有無】



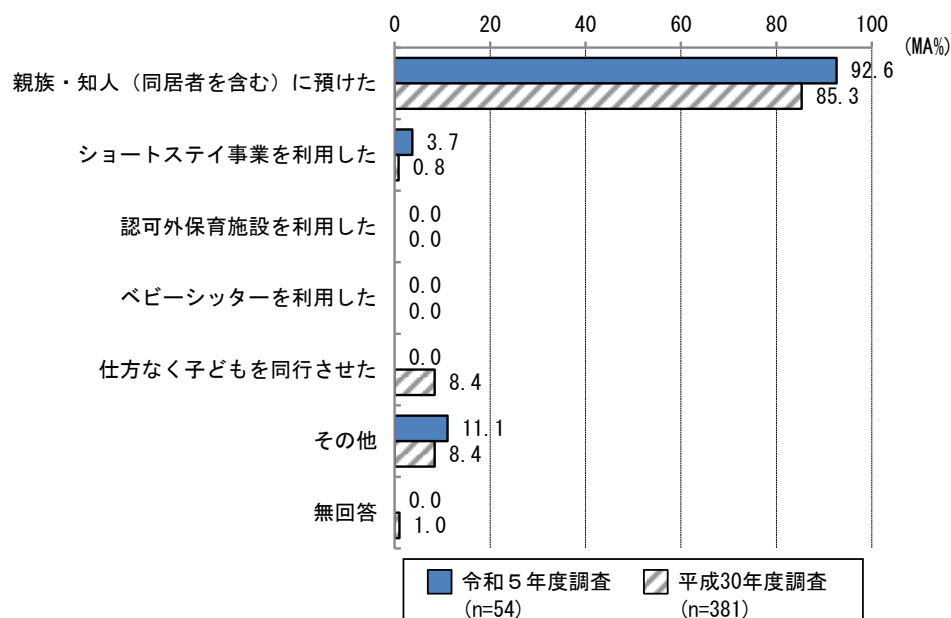
泊まりがけで家族以外に預けようとしたことは、「あった」が13.0%、「なかった」が83.1%となっています。（図5-1）

2. 家族以外に預けた際の対処方法

《問13(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問13(2) この1年間の対処方法とそれぞれの泊数をご回答ください。(複数回答可)

【図5-2 家族以外に預けた際の対処方法】



一時預かり等の年間利用日数

【表5-2-1 一時預かり等の年間利用日数】

	n	1泊	2泊	3泊	4泊	5泊	6泊	7泊以上	(%) 無回答
親族・知人（同居者を含む）に預けた	50	38.0	22.0	6.0	0.0	2.0	2.0	18.0	12.0
ショートステイ事業を利用した	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
認可外保育施設を利用した	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ベビーシッターを利用した	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
仕方なく子どもを同行させた	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の対処方法をした	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

家族以外に預けた際の対処方法は、「親族・知人（同居者を含む）に預けた」が92.6%と最も多くなっています。(図5-2)

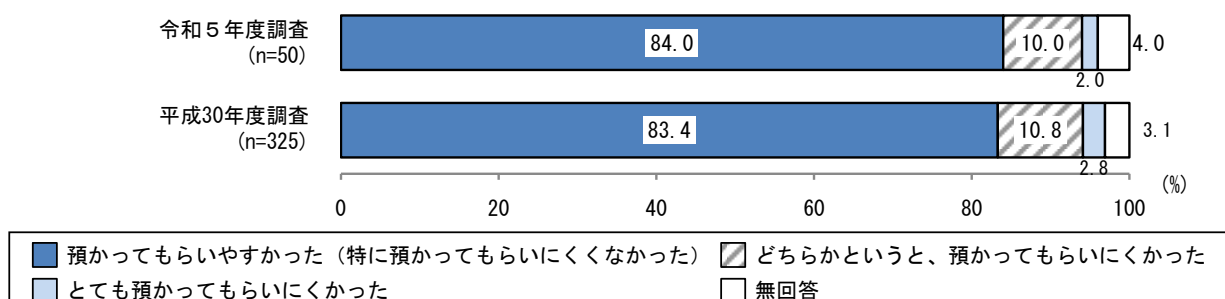
一時預かり等の年間利用日数について、「親族・知人（同居者を含む）に預けた」は「1泊」(38.0%)が最も多くなっています。(表5-2-1)

3. 家族以外に預けた際の状況

≪問13(2)で「1」と答えた方にうかがいます。≫

問13(3) その際は預かってもらいやすい状況でしたか。(○は1つ)

【図5-3 家族以外に預けた際の状況】



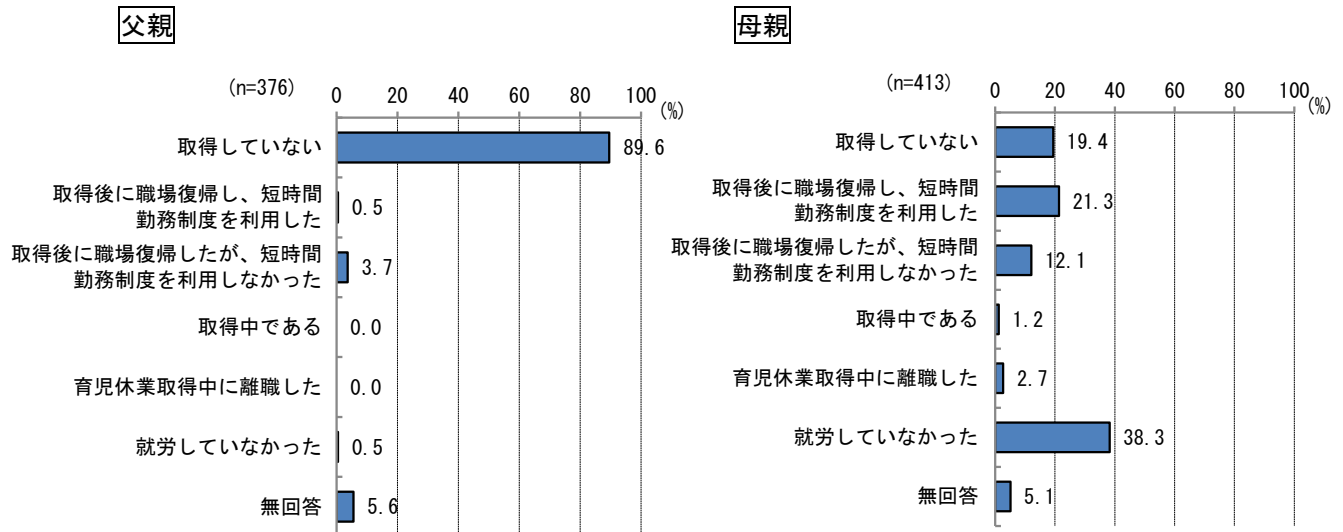
家族以外に預けた際の状況は、「預かってもらいやすかった（特に預かってもらいにくくなかった）」が84.0%、「どちらかというと、預かってもらいにくかった」が10.0%、「とても預かってもらいにくかった」が2.0%となっています。（図5-3）

6 育児休業や短時間勤務制度の職場の両立支援制度について

1. 父親の育児休業の取得有無

問14(1) 宛名のお子さまが生まれたときの育児休業の取得について、父母それぞれに対してお答えください。(○は1つ)

【図6-1 父親・母親の育児休業の取得有無】



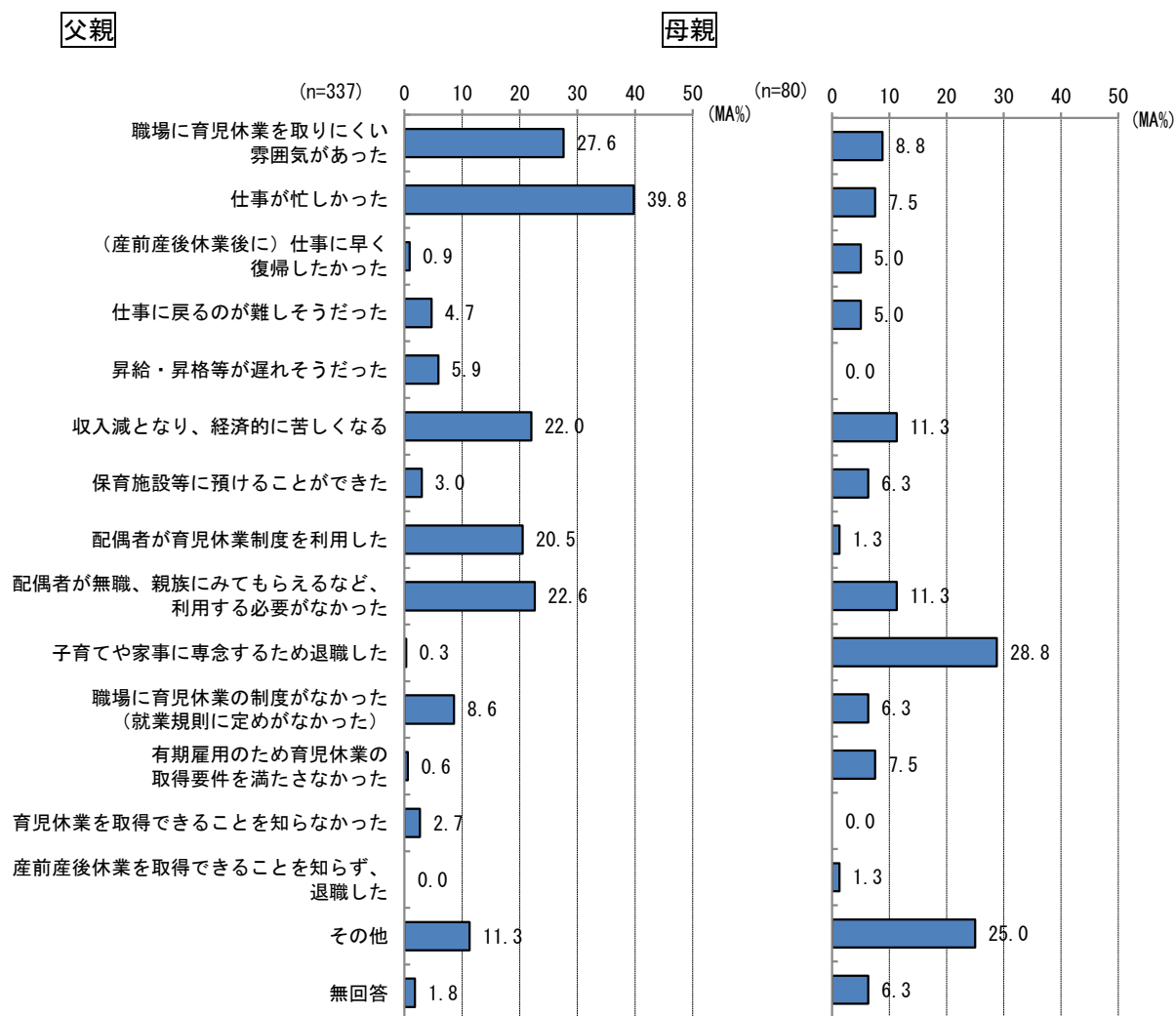
育児休業の取得有無は、父親は「取得していない」(89.6%)が、母親は「就労していなかった」(38.3%)が、それぞれ最も多くなっています。(図6-1)

2. 父親・母親が育児休業を取得していない理由

《問14(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問14(2) その方が、育児休業を取得していない理由は何ですか。(複数回答可)

【図6-2 父親・母親が育児休業を取得していない理由】



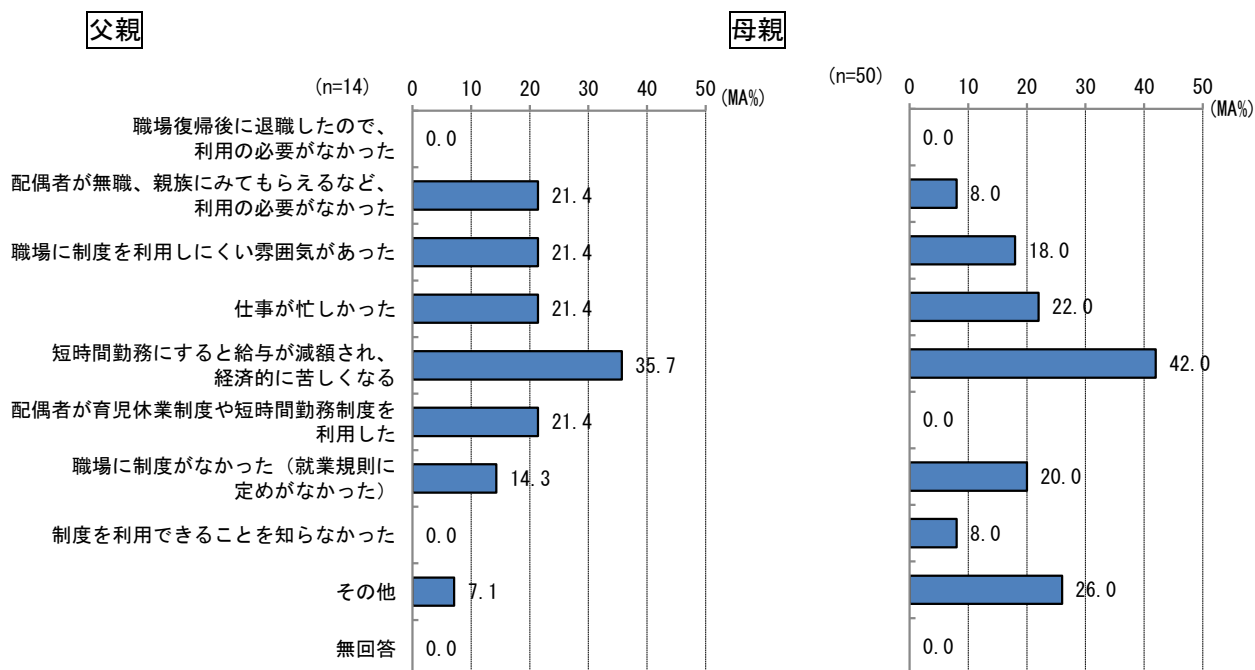
育児休業を取得していない理由は、父親は「仕事が忙しかった」が39.8%で最も多く、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」が28.8%で最も多くなっています。(図6-2)

3. 父親・母親が短時間勤務制度を利用しなかった理由

「問14(1)で「3」と答えた方にうかがいます。」

問14(3) その方が、短時間勤務制度を利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

【図6-3 父親・母親が短時間勤務制度を利用しなかった理由】



短時間勤務制度を利用しなかった理由は、父親、母親とも「短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる」が最も多くなっています。(図6-3)

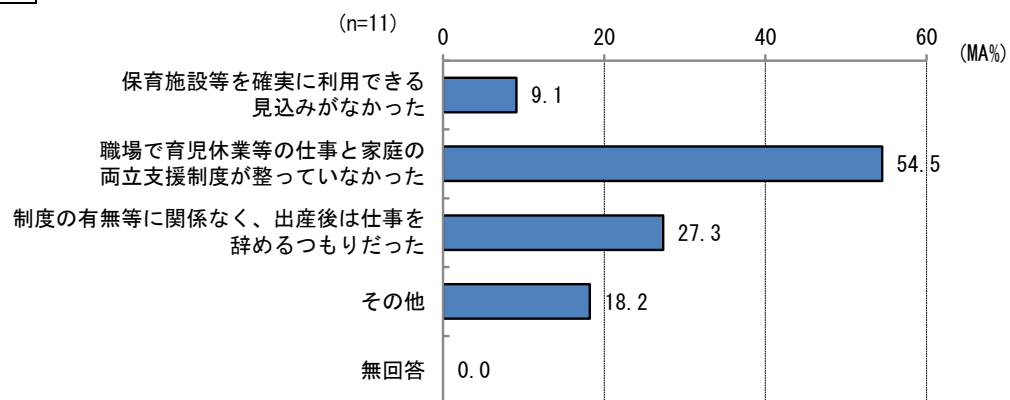
4. 父親・母親が離職した理由

≪問14(1)で「5」と答えた方にうかがいます。≫

問14(4) その方が、離職した理由は何ですか。(複数回答可)

【図6-4 父親・母親が離職した理由】

母親



母親が離職した理由は、「職場で育児休業等の仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった」が最も多くなっています。(図6-4)

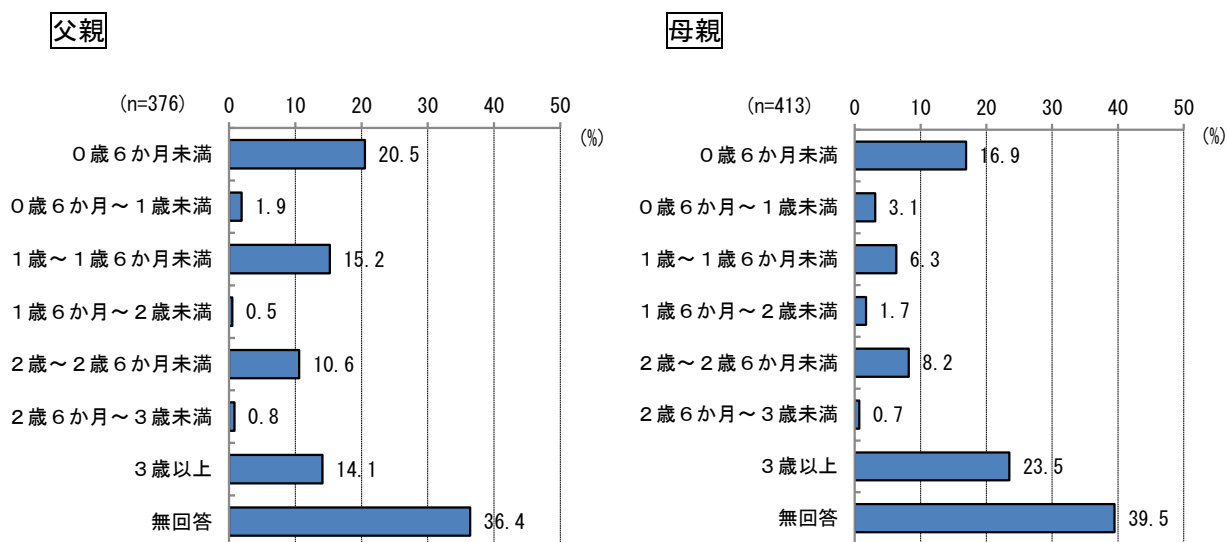
父親

回答者はいません。

5. 父親・母親が希望する育児休業の取得期間

問14(5) 育児休業は、法律上「最長2年間」取得することができますが、希望としては、子どもが何歳何か月のときまで取得したい（取得したかった）ですか。

【図6-5 父親・母親が希望する育児休業の取得時間】

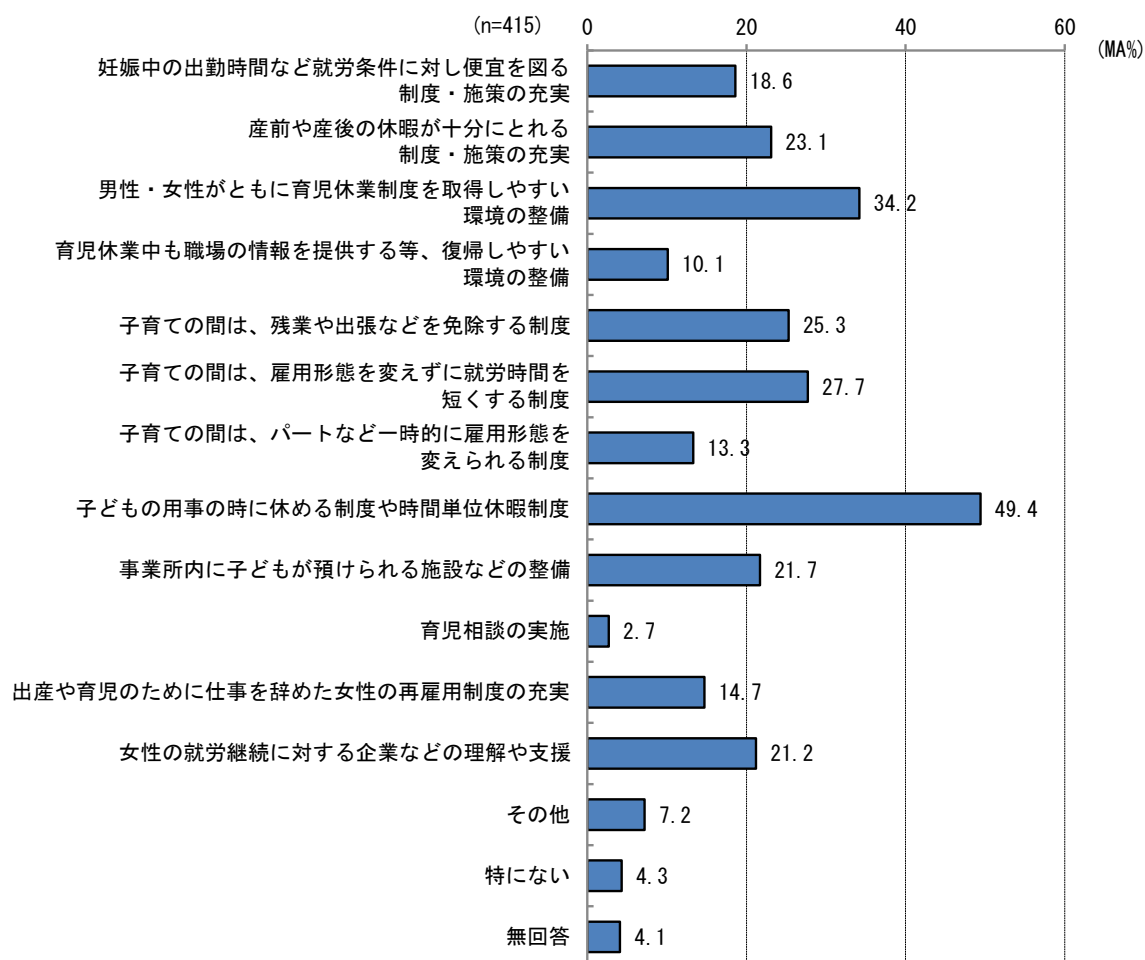


希望する育児休業の取得期間は、父親は「0歳6か月未満」(20.5%)が、母親は「3歳以上」(23.5%)が、それぞれ最も多くなっています。(図6-5)

6. 子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取組

問15 子育てと仕事の両立を支援していくため、社会全体でどのような制度や支援策に最優先で取り組むべきだと思いますか。（〇は3つまで）

【図6-6 子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取組】



子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取り組みは、「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が49.4%で最も多く、次いで「男性・女性がともに育児休業制度を取得しやすい環境の整備」が34.2%、「子育ての間は、雇用形態を変えずに就労時間を短くする制度」が27.7%となっています。（図6-6）

☐ 家族類型別

【表6-6-1 家族類型別 子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取組】

	n	策の充実に 件に対し便 妊娠の出勤 産後の時間 制度・充実 を図るなど 就労条件が 十分にと れる程度に 備え、女性 性・女性が もともとの 育休環境に 整った状態 を整える等 復職しやすい 環境を整え る	男性・女性 性がともに 育児休業中 の職場情報 提供等、復 職しやすい 環境を整え る	子育ての間 は、残業や 出張などを 免除する制 度	子育ての間 は、雇用形 態を変えて 短くする制 度	子育ての間 は、パート など一時的 に雇用形態 を変える制 度	子育ての間 は、パート など一時的 に雇用形態 を変える制 度	子育ての間 は、パート など一時的 に雇用形態 を変える制 度	子育ての間 は、パート など一時的 に雇用形態 を変える制 度	事業所内に 子どもが預 けられる場 所を整備す る	育児相談の 実施	出産や育児 のために仕 事を辞めた 女性の再雇 用制度の充 実	女性の就業 継続に対す る企業側の 理解や支援	その他	特になし	(%) 無回答
ひとり親	41	14.6	17.1	22.0	9.8	31.7	39.0	9.8	46.3	22.0	2.4	19.5	24.4	2.4	14.6	4.9
共働き（両親ともフルタイム）	134	14.2	19.4	34.3	10.4	26.9	30.6	11.2	50.7	20.1	4.5	9.7	25.4	13.4	3.7	2.2
フルタイム・パート	153	22.9	28.1	40.5	11.8	23.5	27.5	16.3	49.0	22.9	1.3	17.0	17.0	4.6	2.0	2.6
専業主婦（夫）	76	19.7	25.0	31.6	6.6	23.7	21.1	14.5	53.9	23.7	1.3	18.4	22.4	3.9	5.3	2.6
両親ともパート	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
両親とも無職	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

家族類型別にみると、“ひとり親”“共働き（両親ともフルタイム）”“フルタイム・パート”“専業主婦（夫）”は「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が最も多くなっています。（表 6-6-1）

☐回答者の続柄別

【表6-6-2 回答者の続柄別 子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取組】

[illegible]

回答者の続柄別にみると、“父”では「男性・女性がともに育児休業制度を取得しやすい環境の整備」が、“母”では“「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が、それぞれ最も多くなっています。(表 6-6-2)

□就労状況別

【表6-6-3 就労状況別 子育てと仕事の両立を支援するために優先すべき取組】

		n	策の充実に 妊娠中の出 勤時間など 就労条件を 図る制度・ 施策の実 施	産前や産 後の休暇が 十分にと れる制度・ 施策の実 施	男性・女性 がともに 育児の休 暇を確保 しやす い環境の 整備	育児休業 中も職場 の情報提 供する等 、復帰し やすい環 境を整備	子育ての 間は、残 業や出張 などを免 除する制 度	子育ての 間は、雇 用形態を 変えずに 就労時間 を短くす る制度	子育ての 間は、雇 用形態を 変えずに 就労時間 を短くす る制度	子育ての 間は、雇 用形態を 変えずに 就労時間 を短くす る制度	子育ての 間は、雇 用形態を 変えずに 就労時間 を短くす る制度	子育ての 間は、雇 用形態を 変えずに 就労時間 を短くす る制度	事業所内 に子ども が預けら れる施設 などの整 備	育児相談 の実施	出産や育 児のため に仕事の 充実を辞 めた女性 の再雇用 制度の実 施	女性の就 労継続に 対する企 業などの 理解や支 援	その他	特にな い	(%) 無回答
父親	就労中（フルタイム）	361	19.1	23.8	35.5	10.0	24.1	27.1	14.1	49.9	21.9	2.8	14.4	21.3	8.0	3.6	2.5		
	就労中（フルタイム） だが育休・介護休業中	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就労中（パートタイム、 アルバイト等）	4	25.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	就労中（パートタイム、 アルバイト等）だ が育休・介護休業中	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	現在就労していない	4	0.0	25.0	75.0	25.0	75.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
母親	就労中（フルタイム）	150	12.7	18.7	34.0	10.0	29.3	31.3	10.7	52.0	20.0	3.3	10.7	26.0	12.0	4.0	2.0		
	就労中（フルタイム） だが育休・介護休業中	8	50.0	25.0	37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	62.5	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0		
	就労中（パートタイム、 アルバイト等）	163	23.3	27.6	38.7	9.8	24.5	27.0	15.3	48.5	21.5	1.2	16.6	16.6	4.3	3.1	2.5		
	就労中（パートタイム、 アルバイト等）だ が育休・介護休業中	5	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0		
	現在就労していない	76	19.7	27.6	28.9	9.2	21.1	22.4	15.8	53.9	23.7	2.6	19.7	23.7	3.9	6.6	2.6		

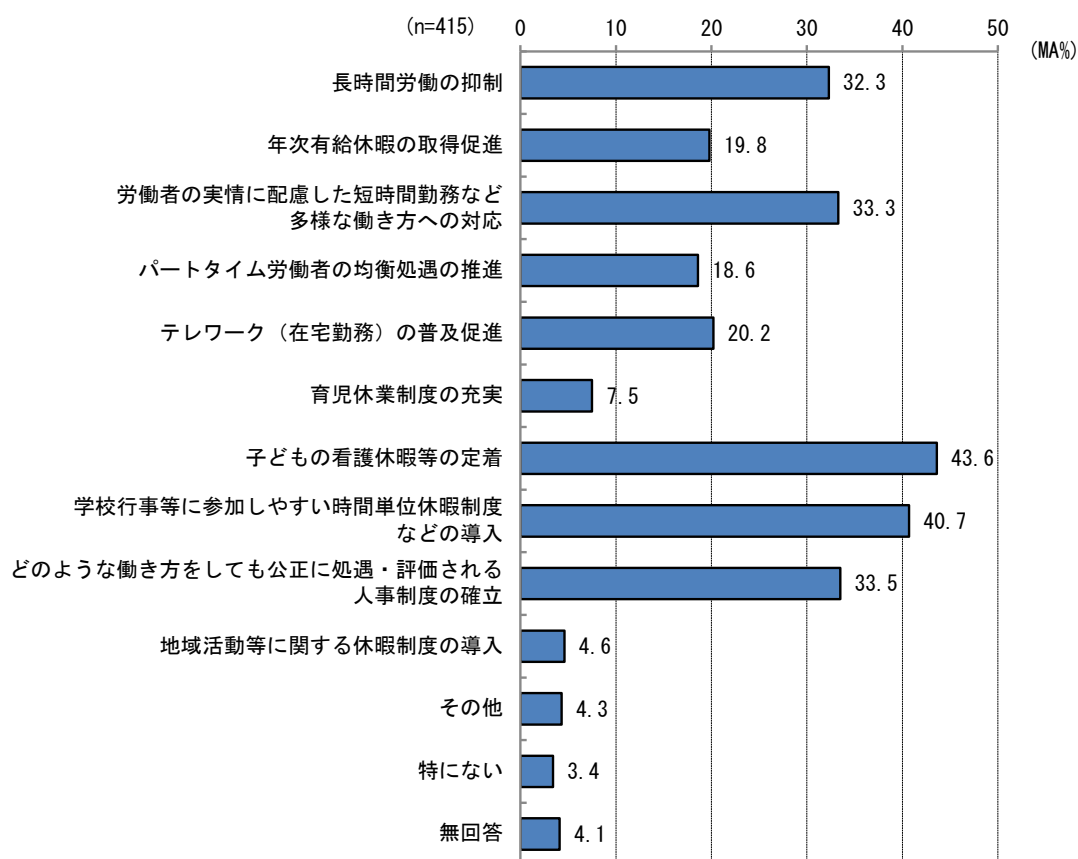
就労状況別にみると、父親の“就労中（フルタイム）”は「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が最も多くなっています。

母親は“就労中（パートタイム、アルバイト等）だが育休・介護休業中”は「子育ての間は、雇用形態を変えずに就労時間を短くする制度」が最も多く、それ以外の就労形態は「子どもの用事の時に休める制度や時間単位休暇制度」が最も多くなっています。（表 6-6-3）

7.「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために企業等が取り組んでほしいこと

問16 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。（〇は3つまで）

【図6-7 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために企業等が取り組んでほしいこと】



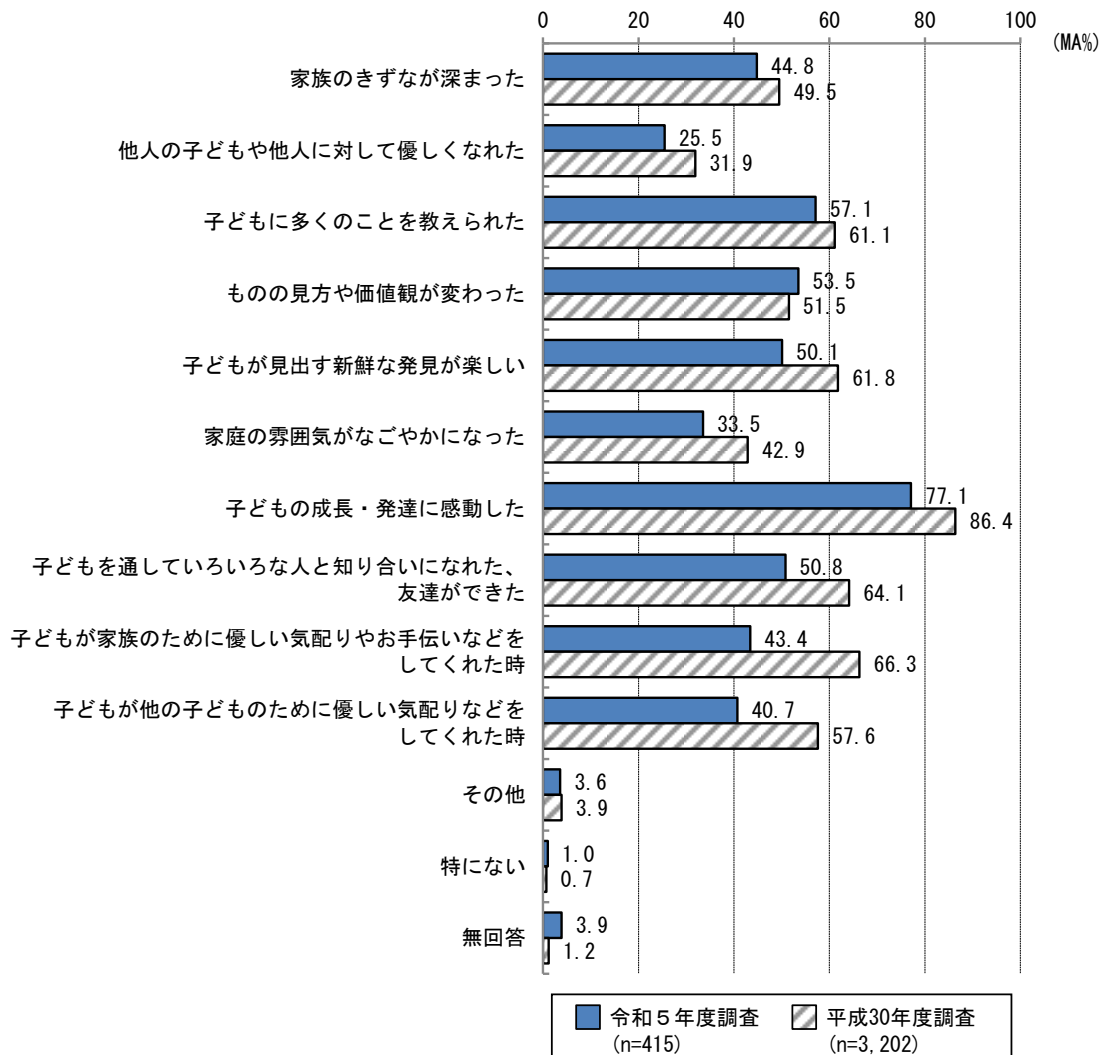
「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために企業等が取り組んでほしいことは、「学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」が43.6%と最も多く、次いで「どのような働き方をしても公正に処遇・評価される人事制度の確立」が40.7%、「地域活動等に関する休暇制度の導入」が33.5%となっています。（図6-7）

7 子育て支援・相談などについて

1. 子育てをしていて「楽しい」「良かった」と感じること

問17(1) 子育てをしていて、「楽しい」「良かった」と最も感じること、感じる時についてお答えください。(複数回答可)

【図7-1 子育てをしていて「楽しい」「良かった」と感じること】



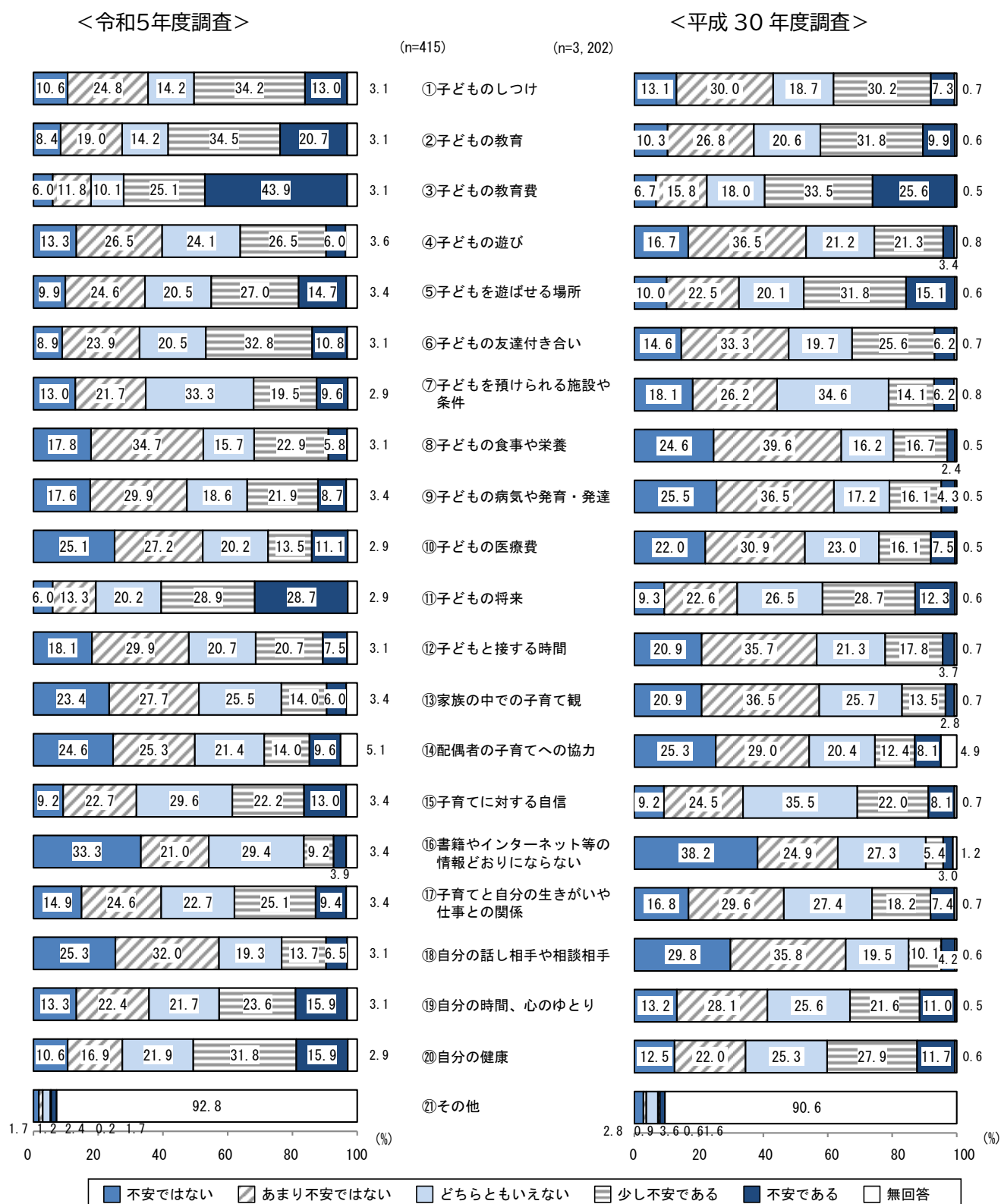
子育てをしていて「楽しい」「良かった」と感じることは、「子どもの成長・発達に感動した」が77.1%と最も多く、次いで「子どもに多くのことを教えられた」が57.1%、「ものの見方や価値観が変わった」が53.5%、「子どもを通していろいろな人と知り合いになれた、友達ができた」が50.8%、「子どもが見出す新鮮な発見が楽しい」が50.1%となっています。

(図7-1)

2. 子育てをしていて不安に感じていること

問17(2) 子育てをしていて、日頃不安に感じていることはありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

【図7-2 子育てをしていて不安に感じていること】



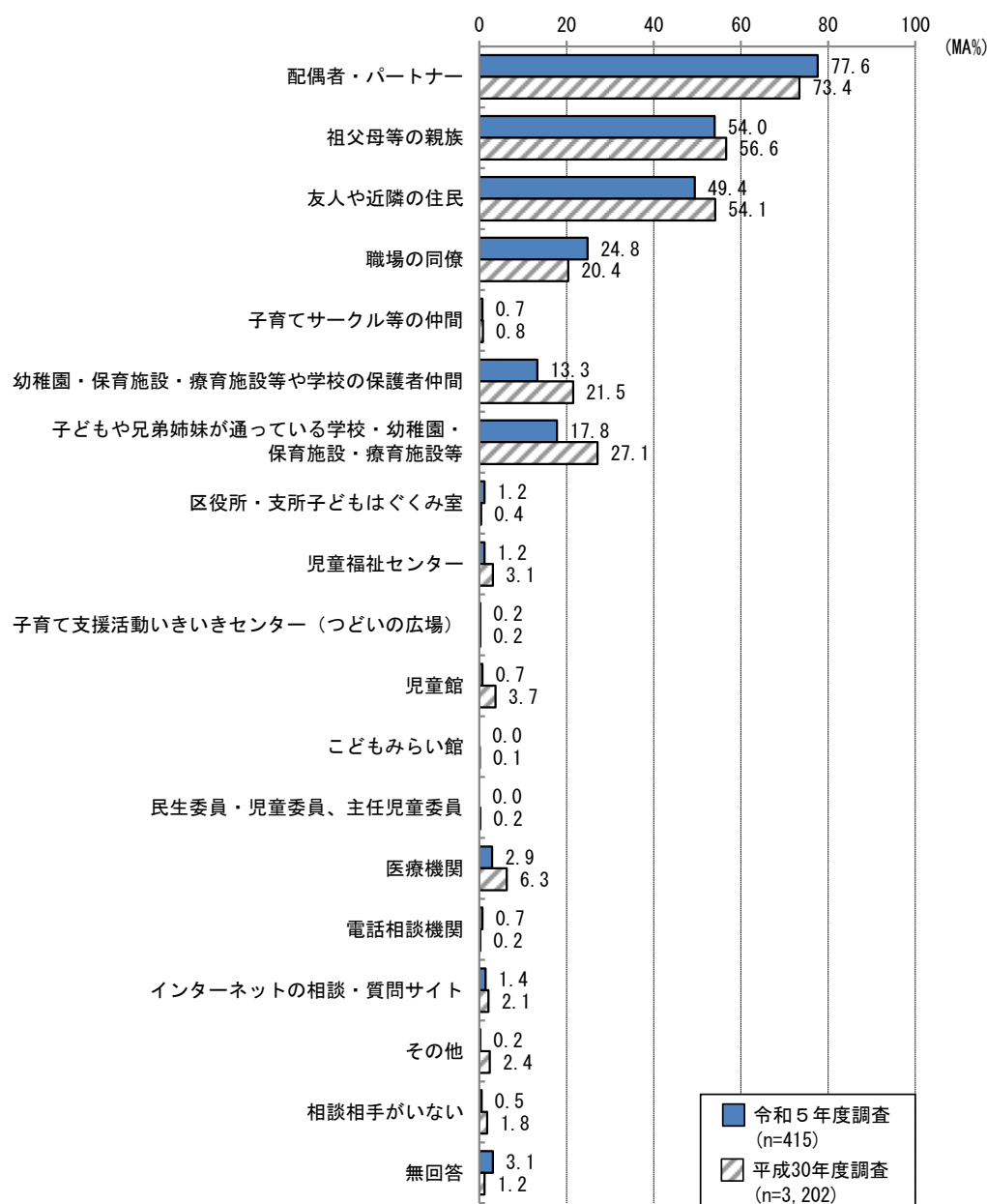
子育てをしていて不安に感じていることについて、『不安である』（「少し不安である」＋「不安である」）の割合が高いのは、〔③子どもの教育費〕（69.0%）、〔⑪子どもの将来〕（57.6%）、〔②子どもの教育〕（55.2%）となっています。

前回調査と比較すると『不安である』割合は、〔⑪子どもの将来〕が 16.6 ポイント、〔②子どもの教育〕が 13.5 ポイント高くなっています。一方、〔⑤子どもを遊ばせる場所〕の割合は 5.2 ポイント低くなっています。（図 7-2）

3. 子育てについての相談相手

問18 宛名のお子さまを育てるうえで、日頃気になることを、どこにまたは誰に相談していますか。(〇は3つまで)

【図7-3 子育てについての相談相手】



※「幼稚園・保育施設・療育施設等や学校の保護者仲間」は前回調査では「幼稚園・保育施設等や学校の保護者仲間」

※「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設等」は前回調査では「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設等」

※「区役所・支所子どもはぐくみ室」は前回調査では「保健福祉センター子どもはぐくみ室」

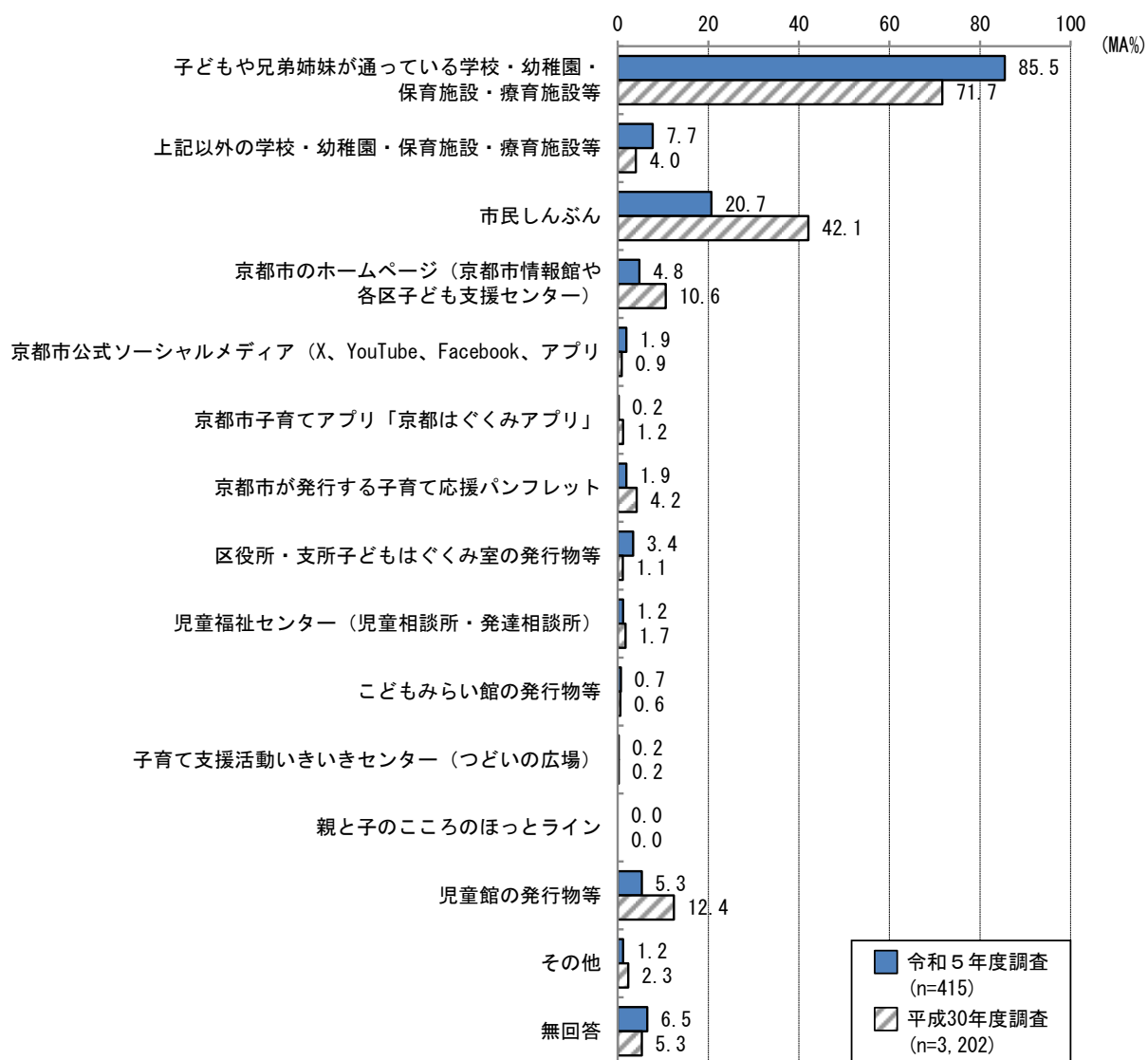
子育てについての相談相手は、「配偶者・パートナー」が77.6%と最も多く、次いで「祖父母等の親族」が54.0%、「友人や近隣の住民」が49.4%となっています。(図7-3)

4. 行政・民間での入手方法

問19 子育てに関する情報の入手方法を、行政と民間のそれぞれでご回答ください。(〇はそれぞれ2つまで)

① 行政での入手方法

【図7-4① 行政での入手方法】



※「親と子のこころのほっとライン」は今回調査のみの選択肢

※「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設等」は前回調査では「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設等」

※「上記以外の学校・幼稚園・保育施設・療育施設等」は前回調査では「上記以外の学校・幼稚園・保育施設等」

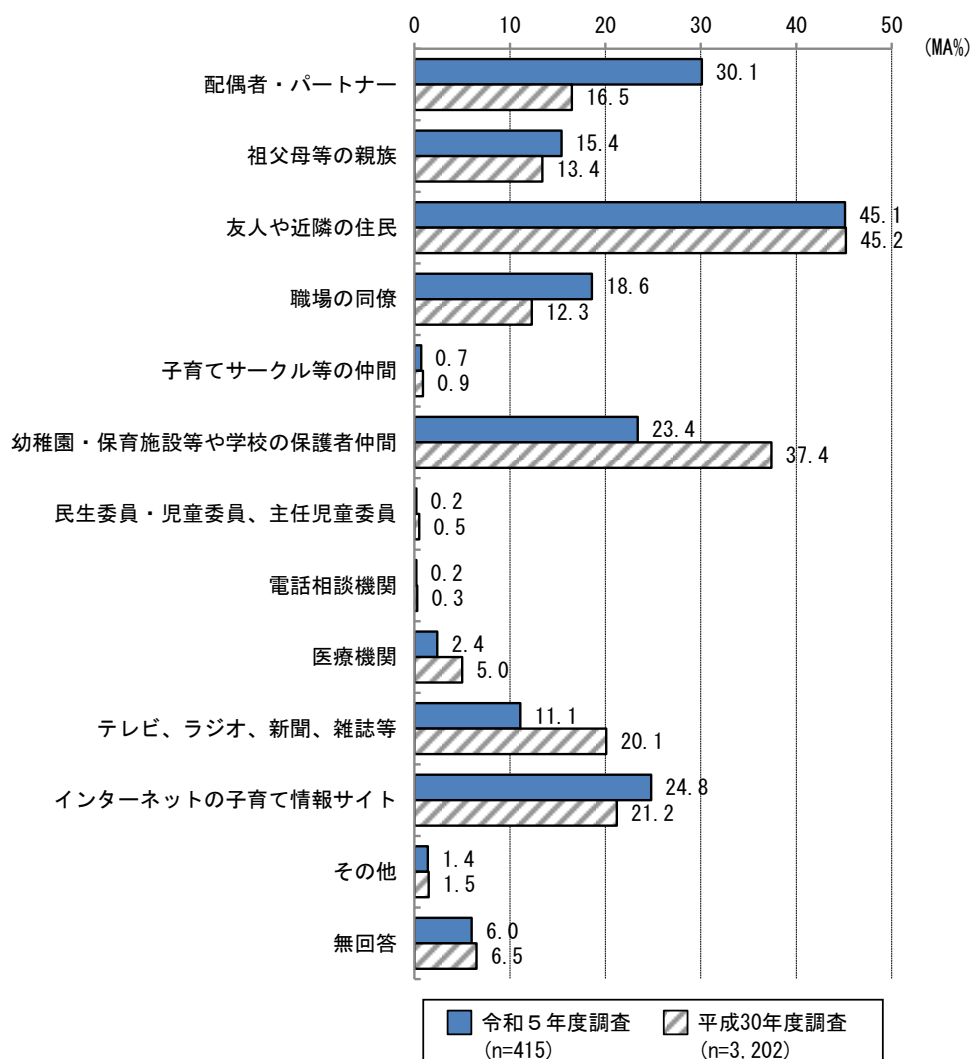
※「区役所・支所子どもはぐくみ室の発行物等」は前回調査では「保健福祉センター子どもはぐくみ室の発行物等」

行政での入手方法は、「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設」が85.5%と最も多く、次いで「市民しんぶん」が20.7%となっています。

前回調査と比較すると、「子どもや兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設等」が13.8ポイント高く、「市民しんぶん」が21.4ポイント低くなっています。(図7-4①)

② 民間での入手方法

【図7-4② 民間での入手方法】



民間での入手方法は、「友人や近隣の住民」が45.1%と最も多く、次いで「配偶者・パートナー」が30.1%、「インターネットの子育て情報サイト」が24.8%、となっています。

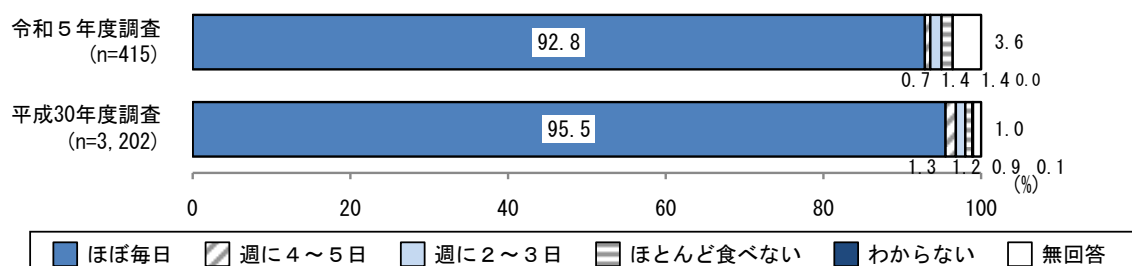
前回調査と比較すると、「配偶者・パートナー」が13.6ポイント高くなっています。一方「幼稚園・保育施設等や学校の保護者仲間」は14.0ポイント低くなっています。(図7-4②)

5. 朝食・夕食習慣

問20(1) 宛名のお子さまは朝食・夕食を1週間に何日程度食べていますか。(〇はそれぞれ1つつ)

① 朝食習慣

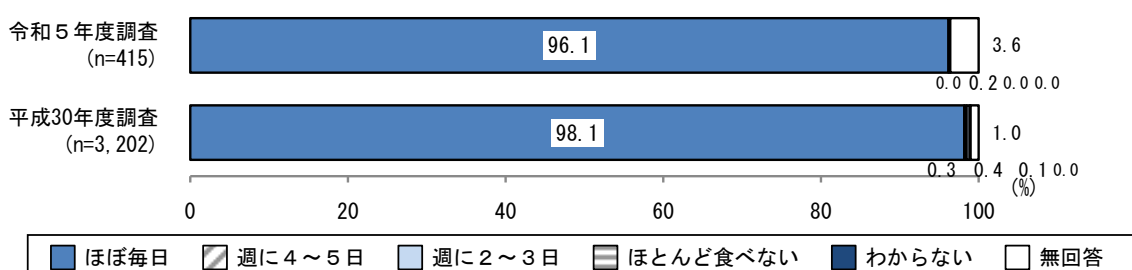
【図7-5① 朝食習慣】



朝食習慣は、「ほぼ毎日」が92.8%と最も多く、次いで「週に2～3日」、「ほとんど食べない」がそれぞれ1.4%、「週に4～5日」が0.7%となっています。(図7-5①)

② 夕食習慣

【図7-5② 夕食習慣】



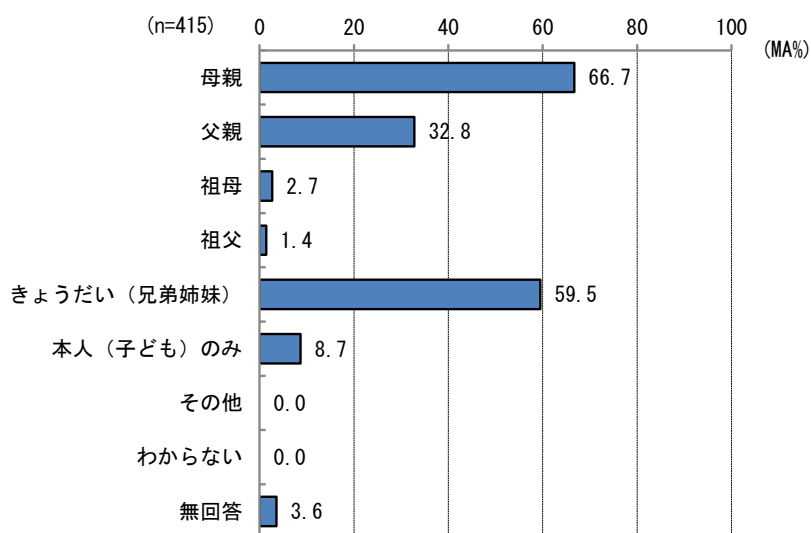
夕食習慣は、「ほぼ毎日」が96.1%と最も多く、次いで「週に2～3日」が0.2%となっています。(図7-5②)

6. 朝食・夕食を一緒に食べる人

問20(2) 宛名のお子さまは、朝食・夕食を誰と食べる人が多いですか。(複数回答可)

① 朝食を一緒に食べる人

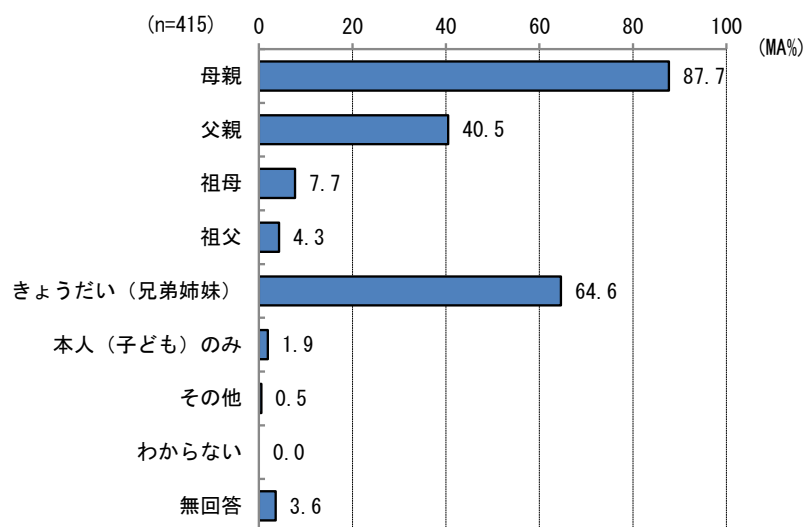
【図7-6① 朝食を一緒に食べる人】



朝食を一緒に食べる人は、「母親」が66.7%と最も多く、次いで「きょうだい（兄弟姉妹）」が59.5%、「父親」が32.8%、「本人（子ども）のみ」が8.7%、「祖母」が2.7%となっています。（図7-6①）

② 夕食を一緒に食べる人

【図7-6② 夕食を一緒に食べる人】

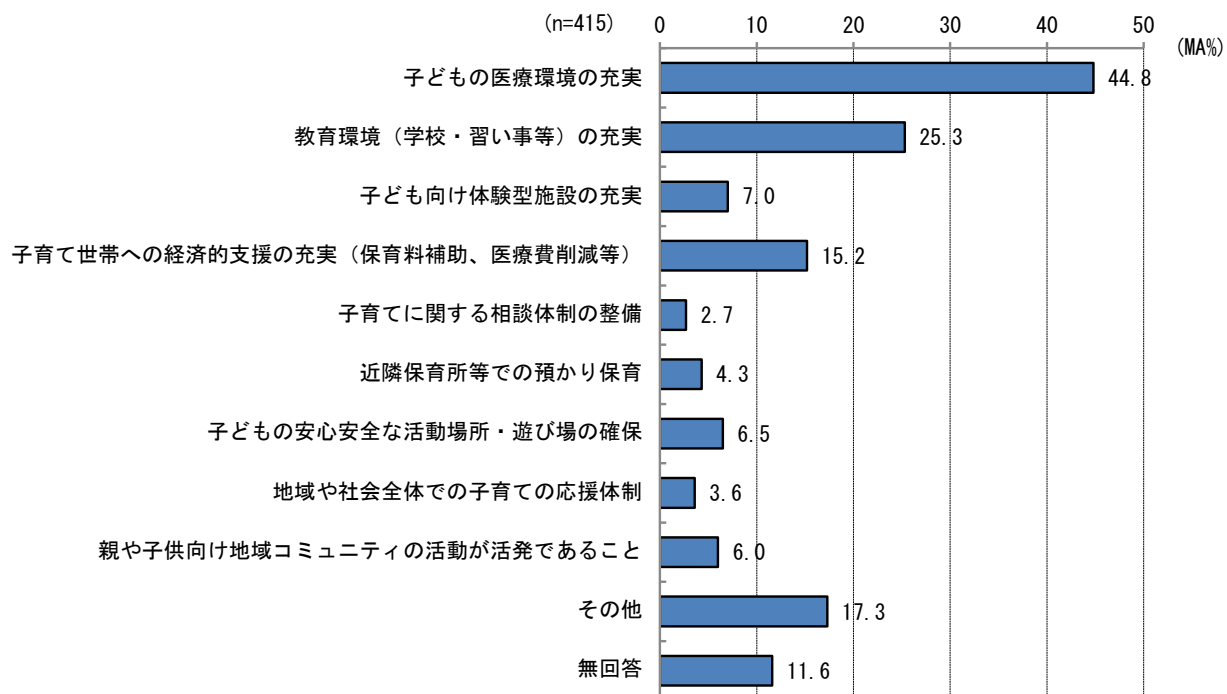


夕食を一緒に食べる人は、「母親」が87.7%と最も多く、次いで「きょうだい（兄弟姉妹）」が64.6%、「父親」が40.5%、「祖母」が7.7%、「祖父」が4.3%となっています。（図7-6②）

7. 京都市の子育て環境で充実していると思うこと

問21(1) 京都市の子育て環境で、充実していると思うことは何ですか。(複数選択可)

【図7-7 京都市の子育て環境で充実していると思うこと】

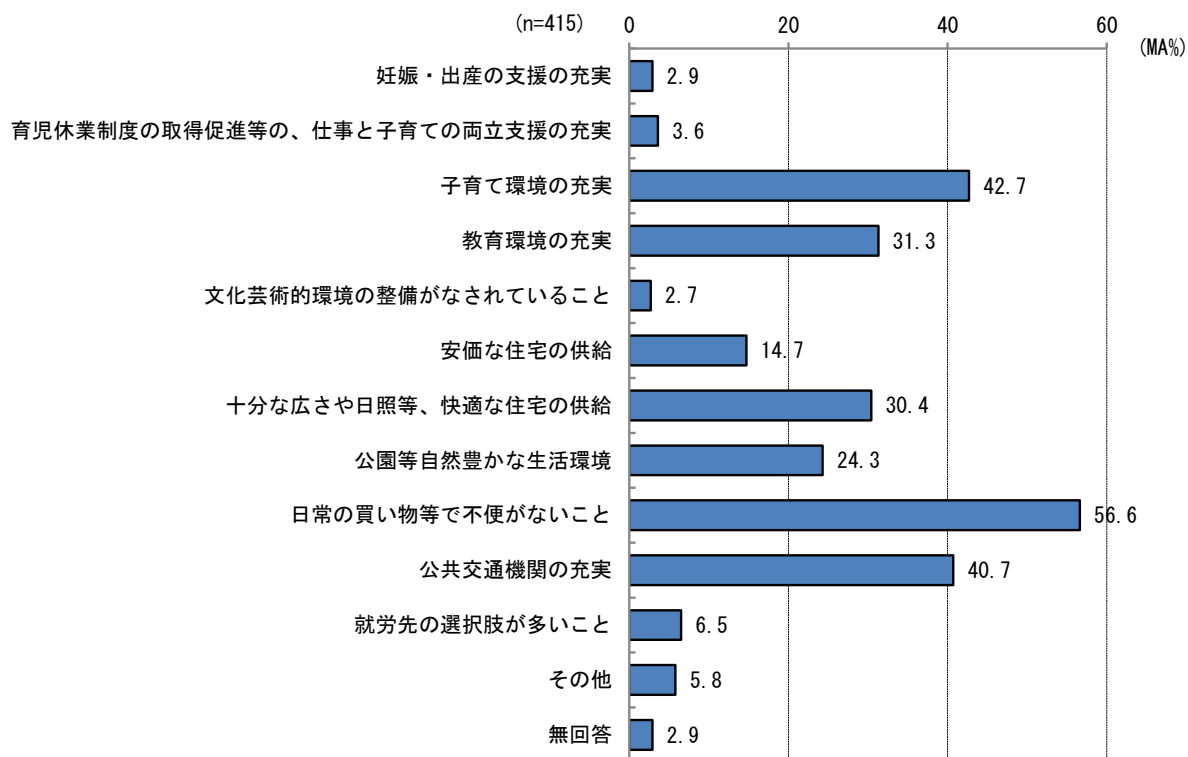


京都市の子育て環境で充実していると思うことは、「子どもの医療環境の充実」が44.8%と最も多く、次いで「教育環境（学校・習い事等）の充実」が25.3%となっています。（図7-7）

8. 住む場所を選ぶ際に重視すること

問21(2) 住む場所を選ぶ際に何を重視しますか（○は3つまで）

【図7-8 住む場所を選ぶ際に重視すること】



住む場所を選ぶ際に重視することは、「日常の買い物等で不便がないこと」が 56.6%と最も多く、次いで「子育て環境の充実」が 42.7%、「公共交通機関の充実」が 40.7%、「教育環境の充実」が 31.3%、「十分な広さや日照等、快適な住宅の供給」が 30.4%となっています。
(図 7-8)

8 自由記述

本アンケートや行政に期待する支援施策に関すること等で、ご意見がございましたらご記入ください。

カテゴリー	主な御意見
学校	・ 中学校給食を実施してほしい。 ・ 学校が老朽化している。 ・ 先生の負担軽減のため、人数を増やしてほしい。 など
子育て支援	・ 第三子からではなく第一子に対する支援を充実させてほしい。 ・ 低所得家庭への支援が多く、所得制限に不公平感がある。 ・ 中所得家庭への支援を実施してほしい。 など
保育	・ 保育料が高い。 ・ 保育士の人員配置や賃料の改善に取り組んでほしい。 など
高等教育	・ 所得制限のない高校、大学無償化を実施してほしい。 など
遊び場	・ ボール遊びのできる公園がない。 ・ 大型の遊べる場所を作してほしい。 など

Ⅲ. 参考資料(調査票)

子育て支援に関する市民ニーズ調査

【小学生の保護者用】

調査へのご協力をお願い

日頃より市政の推進について温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、京都市では、子育て支援施策をさらに推進していくため、小学校のお子さまがおられるご家庭の中から無作為に選ばせていただき、アンケート調査を実施することとなりました。

回答は、以下二次元コードを QR 読み取りのうえご入力いただくか、同封の用紙にご記入ください。

この調査は、皆さまの子育ての状況や子どもや子育て支援に関するご意見をお聞かせいただき、今後の京都市の子育て支援施策の充実に向けた基礎資料とするために行う、非常に重要なものです。

なお、無記名でご回答いただきますので、どなたのご回答かはわかりません。また、回答された内容はすべて統計的に処理され、目的外に使用することはございません。

大変お忙しいと思いますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

令和5年12月

京都市長 門川大作

回答にあたってのお願い

- このアンケートは、封筒の宛名のお子さまの保護者の方がご回答ください。
- 注意書きがある場合を除き、封筒の宛名のお子さまについてご回答ください。
- 設問により、回答数が異なります。
- 設問により、回答いただく方が限られています。
- 「その他」をお選びいただいた場合は、() 内に具体的な内容をご回答ください。
- 回答しづらい質問については空欄としてください。
- アンケートの締切日は、「**令和5年12月25日**」となっております。
- 同封の用紙で回答された場合は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストにご投函ください。
- アンケート結果は、令和6年4月以降に、京都市ホームページにおいて公表する予定です。

◎本調査は、WEB回答でも受け付けております。スマホ・パソコン・タブレットで下記二次元コードより入っていただき、ID・パスワードを入力の上、回答をお願いします。

◆WEB専用回答ページ



<https://en.sursee.co.jp/2023kyoto12/>

ID

パスワード

※ID・パスワードは、調査専用画面に入るための認証キーです。回答者を特定するためのものではありません。

【問合せ先・速達先】

株式会社サードパーティリサーチセンター大阪事務所

フリーダイヤル：0120-186-189

受付時間：月～金曜日（土曜・日曜・祝日除く） 午前9時～午後5時

お子さまとご家族の状況について

問1 宛名のお子さまの年齢をご回答ください。(令和5年10月1日現在)

() 歳

問2 お住まいの区をご回答ください。

() 区

問3 家族の人数(ご自身や宛名のお子さまも含む。)をご回答ください。

家族の人数	お子さまの人数		
	小学校入学前	小学生	中学生以上
人	人	人	人
末子の生年月 平成・令和 () 年 () 月			

問4 この調査票を回答されている方はどなたですか(宛名のお子さまからみた関係)。(○は1つ)

1. 父 2. 母 3. その他 ()

問5 (1) 宛名のお子さまとの同居・近居の状況についてご回答ください(宛名のお子さまからみた関係)。(複数回答可)

1. 父母と同居 2. 父と同居(ひとり親家庭) 3. 母と同居(ひとり親家庭)
4. 祖父と同居 5. 祖母と同居 6. 祖父と近居
7. 祖母と近居 8. その他 ()

※「近居」は、概ね徒歩30分以内で行き来できる範囲。

問5 (2) 宛名のお子さまの父母の年齢をご回答ください。(令和5年10月1日現在)

父【母子家庭の場合は記載不要です】	母【父子家庭の場合は記載不要です】
() 歳	() 歳

問6 同居・近居のご家族の中に、傷病等により看護が必要な方や、障害等により介護・支援が必要な方はおられますか(緑柄は宛名のお子さまからみた関係)。(複数回答可)

1. いない 2. 本人 3. 父 4. 母 5. 兄 6. 姉
7. 弟 8. 妹 9. 祖父 10. 祖母 11. その他 ()

問7 あなたの世帯の昨年1年間(令和4年1月1日～同年12月31日)の可処分所得(実収入から税金や社会保険料等を引いたいわゆる手取り収入)はおおよそどのくらいですか。(○は1つ)

1. 0～100万円 2. 101万～200万円 3. 201万～300万円
4. 301万～400万円 5. 401万～500万円 6. 501万～600万円
7. 601万～800万円 8. 801万～1,000万円 9. 1,001万円以上

問8 (1) 日頃、お子さまを預けられる人についてご回答ください。(複数回答可)。また、日常的に預けられている場合は、日数や時間帯をご回答ください(「9時～18時」のように24時間制)。

1. 1週間の内、定期的に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる
↳ 週 () 日 預けている () 時 () 分から () 時 () 分まで
2. 緊急時等に子どもを預けられる祖父母等の親族がいる
3. 1週間の内、定期的に子どもを預けられる友人・知人がいる
↳ 週 () 日 預けている () 時 () 分から () 時 () 分まで
4. 緊急時等に子どもを預けられる友人・知人がいる
5. いずれもない

問9 宛名のお子さまの育児や家事等に主に関わっている方はどなたですか。(複数回答可)

	父	母	子ども自身でできる	祖父	祖母	その他
① 洗濯をする	1	2	3	4	5	6 ()
② 食料品等の日常的な買い物をする	1	2	3	4	5	6 ()
③ 家族や子どもの食事をつくる	1	2	3	4	5	6 ()
④ 子どもに食事を食べさせる	1	2	3	4	5	6 ()
⑤ 子どもを風呂に入れる	1	2	3	4	5	6 ()
⑥ 子どもと遊ぶ	1	2	3	4	5	6 ()
⑦ 子どもの着替え	1	2	3	4	5	6 ()
⑧ 学童クラブ・放課後等デイサービス等や習い事、塾等の送り迎えをする	1	2	3	4	5	6 ()
⑨ 子どもを寝かしつける	1	2	3	4	5	6 ()
⑩ 子どもをしつける	1	2	—	4	5	6 ()
⑪ 子どもに本を読み聞かせる	1	2	3	4	5	6 ()
⑫ 子どもとの宿題や勉強を見る	1	2	3	4	5	6 ()
⑬ 予防接種や健診に連れて行く	1	2	—	4	5	6 ()
⑭ 子どもが病気の際に看病したり病院に連れて行ったりする	1	2	—	4	5	6 ()
⑮ 子どもを会や子育てサークル、町内会や地藏盆等の子どもに関する地域活動に参加する	1	2	3	4	5	6 ()



お子さまのお父さん、お母さんの就労状況について

問10(1) 父親・母親それぞれの現在の就労状況（自営業、家族従事者含む。）について、「1～5」の中からお選びください。（○はそれぞれ1つずつ）
就労している方は、〔 〕に数字（時刻の場合は「18時頃」のように24時間制）をご回答ください。就労時間については、30分以上の場数は切下げてご回答ください。
例：1日の就労時間が6時間30分の場合→「7時間」と回答
1日の就労時間が6時間29分の場合→「6時間」と回答

※「フルタイム」とは、1週5日・1日8時間程度の就労をいいます。

父		母	
1. 就労中（フルタイム） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	1. 就労中（フルタイム） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	2. 就労中（パートタイム、アルバイト等） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	2. 就労中（パートタイム、アルバイト等） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃
3. 就労中（パートタイム、アルバイト等） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	3. 就労中（パートタイム、アルバイト等） →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	4. 就労中（パートタイム、アルバイト等）だが育児・介護休業中 育児・介護休業中 →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃	4. 就労中（パートタイム、アルバイト等）だが育児・介護休業中 育児・介護休業中 →1週あたりの平均的就労日数・時間、働いている日の平均的な家を出る時間と帰宅時間 〔 〕日 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間 家を出る時間〔 〕時頃 帰宅時間〔 〕時頃
5. 現在就労していない ⇒ 問10(3)、(4)へ	5. 現在就労していない ⇒ 問10(3)、(4)へ	5. 現在就労していない ⇒ 問10(3)、(4)へ	5. 現在就労していない ⇒ 問10(3)、(4)へ

《問10(1)で「1～4」と答えた方にうかがいます。》

問10(2) フルタイムまたはパートタイム等への転換希望はありますか。（○はそれぞれ1つずつ）

	父	母
① フルタイムへの転換を希望している	1	1
② フルタイムへの転換を希望しているが転換できる見込みはない	2	2
③ パートタイム、アルバイト等への転換を希望している	3	3
④ 現在の就労を継続したい	4	4
⑤ 就労をやめたい	5	5

《問10(1)で「5」と答えた方にうかがいます。》

問10(3) 現在就労していない主な理由は何ですか。（○はそれぞれ1つずつ）

	父	母
① 配偶者が就労しているなどで就労する必要がないため	1	1
② 子育てのため	2	2
③ 家族・親族等の看護・介護のため	3	3
④ 健康上の問題があるため	4	4
⑤ 家族の理解が得られないため	5	5
⑥ 条件に合った仕事が見つからないため	6	6
⑦ その他（〔 〕内に理由を回答）	7（〔 〕）	7（〔 〕）

3

《問10(1)で「5」と答えた方にうかがいます。》

問10(4) 現在就労していない方は今後、就労を希望していますか。（○はそれぞれ1つずつ）
あわせて、〔 〕に数字をご回答ください。

父	母
1. 就労を希望していない	1. 就労を希望していない
2. 1年より先、末子が〔 〕歳ぐらいいになったら就労したい	2. 1年より先、末子が〔 〕歳ぐらいいになったら就労したい
3. 看護、介護等が必要なくなれば就労したい	3. 看護、介護等が必要なくなれば就労したい
4. 1年以内に就労したい	4. 1年以内に就労したい

→「(2～4)」の場合 希望する就労形態	→「(2～4)」の場合 希望する就労形態
① フルタイム ② パートタイム、アルバイト等 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間	① フルタイム ② パートタイム、アルバイト等 1週あたり〔 〕日 1日あたり〔 〕時間

お子さまの病氣・病後時の対応について

問11(1) この1年間に、宛名のお子さまが病氣や病氣の回復期であるために、学校を休まなければならなかったことはありましたか。（○は1つ）

1. あった ⇒ 問11(2)へ	2. なかった ⇒ 問12(1)へ
------------------	-------------------

《問11(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問11(2) この1年間との対象方法とそれぞれの日数をご回答ください。（複数回答可）

1. 父が仕事を休んだ	() 日	⇒ 問11(3)へ
2. 母が仕事を休んだ	() 日	
3. 親族・知人（同居者を含む。）に預けた	() 日	
4. 子どもを仕事に同行させた	() 日	
5. 病児・病後児保育事業を利用した	() 日	
6. ベビーシッターを利用した	() 日	
7. ファミリーサポート事業を利用した	() 日	
8. その他（〔 〕）	() 日	
9. 就労していない母または父がみた	() 日	⇒ 問12(1)へ

《問11(2)で「1～4」と答えた方にうかがいます。》

問11(3) その際、できれば病児・病後児保育事業等を利用したいと思いませんか。（○は1つ）
また利用したい日数についてもご記入ください。

1. できれば病児・病後児保育事業等を利用したい → () 日 ⇒ 問11(4)、(5)へ
2. できれば家庭等で面倒をみてあげたい（利用したいと思わない） ⇒ 問12(1)へ

4

《問11(3)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問11(4) 病氣または病後の子どもを預ける場合、どのような事業を希望しますか。(複数回答可)

1. 医療機関に併設した専用スペースで子どもを保育する事業

2. 看護師、保育士等1名が子どもの居宅を訪問し、子どもを保育する事業

3. 地域住民が子どもの居宅等の場所で、子どもを預かる事業(例：ファミリーサポート事業)

4. その他()

5. どのような事業でもよい

《問11(3)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問11(5) 病児・病後児保育事業等を実際に利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

1. 父母のいずれかが仕事を休むことができた

2. 親族・知人に預けることができた

3. 病児・病後児を他人にみてもらうのは不安

4. 事業実施施設に空きがなかった

5. 自宅や職場の近くに事業実施施設がない

6. 事業の実施時間(原則平日の8時～18時)が合わない

7. 利用料がかかる・高い

8. 事業の質に不安がある

9. 事業の利用方法や事業実施施設がわからない

10. そのような事業があることを知らなかった

11. その他()

お子さまの宿泊を伴わない日中の一時預かりについて

問12(1) 宛名のお子さまについて、この1年間に、宿泊を伴わない日中の一時預かりを利用したことがありますか。(複数回答可)。利用したことがある場合は、()内にそれぞれの日数(半日程度でも1日とみなします)をご回答ください。

1. 親族・知人(同居者を含む。)に預けた()日

2. 子育て支援短期利用事業(トワイライトステイ)を利用した()日

3. ファミリーサポート事業を利用した()日

4. 認可外保育施設・ベビーシッターを利用した()日

5. 児童館を利用した()日

6. その他()日

7. 利用していない⇒問12(2)へ

《問12(1)で「7」と答えた方にうかがいます。》

問12(2) 現在利用していない理由は何ですか。(複数回答可)

1. 特に利用する必要がない

2. 事業実施施設に空きがない

3. 利用したい時間帯と事業の実施時間が合わない

4. 自宅や職場の近くに事業実施施設がない

5. どこで実施しているかわからない

6. 利用料がかかる・高い

7. 事業の質に不安がある

8. 事業の対象者や利用方法(手続き等)がわからない

9. そのような事業があることを知らなかった

10. その他()

お子さまの宿泊を伴う一時預かりについて

問13(1) 宛名のお子さまについて、この1年間に、泊まりがけで家族以外に預けようとしたこと(預け先が見つからなかった場合を含む。)はありましたか。(〇は1つ)

1. あった⇒問13(2)へ

2. なかった⇒問14(1)へ

《問13(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問13(2) この1年間の対処方法とそれぞれの泊数をご回答ください。(複数回答可)

1. 親族・知人(同居者を含む。)に預けた()泊⇒問13(3)へ

2. ショートステイ事業を利用した()泊

3. 認可外保育施設を利用した()泊

4. ベビーシッターを利用した()泊⇒問14(1)へ

5. 仕方なく子どもを同行させた()泊

6. その他()泊

《問13(2)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問13(3) その際は預かってもらいやすい状況でしたか。(〇は1つ)

1. 預かってもらいやすかった(特に預かってもらいにくくはなかった)

2. どちらかというと、預かってもらいにくかった

3. とても預かってもらいにくかった

育児休業や短時間勤務制度の職場の面立支援制度について

問14(1) 宛名のお子さまが生まれたときの育児休業の取得について、父母それぞれに就いてお答えください。(〇は1つ)

	父	母
① 取得していない⇒問14(2)へ	1	1
② 取得後に職場復帰し、短時間勤務制度を利用した	2	2
③ 取得後に職場復帰したが、短時間勤務制度を利用しなかった⇒問14(3)へ	3	3
④ 取得中である	4	4
⑤ 育児休業取得中に離職した⇒問14(4)へ	5	5
⑥ 就労していない	6	6

《問 14(1)で「1」と答えた方にうかがいます。》

問 14(2) その方が、育児休業を取得していない理由は何ですか。(複数回答可)

	父	母
① 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった	1	1
② 仕事が多かった	2	2
③ (産前産後休業後に) 仕事に早く復帰したかった	3	3
④ 仕事に戻るのが難しそうだった	4	4
⑤ 昇給・昇格が遅れそうだった	5	5
⑥ 収入減となり、経済的に苦しくなる	6	6
⑦ 保育施設等に預けることができた	7	7
⑧ 配偶者が育児休業制度を利用した	8	8
⑨ 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	9	9
⑩ 子育てや家事に専念するため退職した	10	10
⑪ 職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	11	11
⑫ 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった	12	12
⑬ 育児休業を取得できることを知らなかった	13	13
⑭ 産前産後休業(産前8週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した	14	14
⑮ その他	15()	15()

《問 14(1)で「3」と答えた方にうかがいます。》

問 14(3) その方が、短時間勤務制度を利用しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

	父	母
① 職場復帰後に退職したので、利用の必要がなかった	1	1
② 配偶者が就労していない、祖父母等の親族にみてもらえるなど、利用の必要がなかった	2	2
③ 職場に制度を利用しにくい雰囲気があった	3	3
④ 仕事が多かった	4	4
⑤ 短時間勤務にすると給与が減額され、経済的に苦しくなる	5	5
⑥ 配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	6	6
⑦ 職場に制度がなかった(就業規則に定めがなかった)	7	7
⑧ 制度を利用できることを知らなかった	8	8
⑨ その他 (() 内に理由を記入)	9 ()	9 ()

7

《問 14(1)で「5」と答えた方にうかがいます。》

問 14(4) その方が、離職した理由は何ですか。(複数回答可)

	父	母
① 保育施設等を確実に利用できる見込みがなかった	1	1
② 職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援制度が整っていなかった	2	2
③ 制度の有無等に関係なく、出産後は仕事を辞めるつもりだった	3	3
④ その他 (() 内に理由を記入)	4 ()	4 ()

問 14(5) 育児休業は、法律上「最長2年間」取得することができますが、希望としては、子どもが何歳何か月のときまで取得したい(取得したかった)ですか。

父	母
() 歳 () か月	() 歳 () か月

問 15 子育てと仕事の両立を支援していくため、社会全体でどのような制度や支援策に最優先で取り組むべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 妊娠中の出勤時間など就労条件に対して便宜を図る制度・施策の充実
2. 産前や産後の休暇が十分にとれる制度・施策の充実
3. 男性・女性がともに育児休業制度を取得しやすい環境の整備
4. 育児休業中も職場の情報を提供するなど、職場に復帰しやすい環境の整備
5. 子育ての間は、残業や出張などを免除する制度
6. 子育ての間は、雇用形態を変えずに就労時間を短くする制度
7. 子育ての間は、パートなど一時的に雇用形態を変えることができる制度
8. 子どもの用事(学校行事、病欠など)の時に休める制度や時間単位休暇制度
9. 事業所内に子どもが預けられる施設などの整備
10. 育児相談の実施
11. 出産や育児のために仕事を辞めた女性の再雇用制度の充実
12. 女性の就労継続に対する企業などの理解や支援
13. その他 ()
14. 特にない

8

問16 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現のために、企業等にどのようなことに取り組んでほしいと思いますか。(〇は3つまで)

※「真のワーク・ライフ・バランス」とは

京都市が提唱する仕事と家庭生活の両立を「時間のバランス」を超え、人間らしくいきいきと効率的に働き、同時に育児や介護等の家庭生活も大事にする考え方です。また、地域活動や社会貢献活動が調和することで、人間力が高まり、心豊かな充実した人生を送ることができると考える考え方です。

1. 長時間労働の抑制

2. 年次有給休暇の取得促進

3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応

4. パートタイム労働者の均衡処遇の推進

5. テレワーク（在宅勤務）の普及促進

6. 育児休業制度の充実

7. 子どもの看護休暇等の定着

8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入

9. どのような働き方をしても、公正に処遇・評価される人事制度の確立

10. 地域活動等に関する休暇制度の導入

11. その他（

12. 特にない



子育て支援・相談などについて

問17(1) 子育てをされていて、「楽しい」「良かった」と最も感じることを、感じる時についてお答えください。(複数回答可)

1. 家族のきずなが深まった

2. 他人の子どもや他人に対して優しくなれた

3. 子どもに多くのことを教えられる

4. ものの見方や価値観が変わった

5. 子どもが見出す新鮮な発見が楽しい

6. 家庭の雰囲気がおこやかに変わった

7. 子どもの成長・発達に感動した（歩いた、しゃべった、運動会での活躍など）

8. 子どもを通していろいろな人と知り合いになった、友達ができた

9. 子どもが家族のために優しい気配りやお手伝いなどをしてくれた時

10. 子どもが他の子ども（友達）のために優しい気配りなどをしてくれた時

11. その他（

12. 特にない

問17(2) 子育てをされていて、日頃不安に感じていることはありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	不安 ではない	あまり不安 ではない	どちらとも いえない	少し不安 である	不安 である
① 子どものしつけ	1	2	3	4	5
② 子どもの教育	1	2	3	4	5
③ 子どもの教育費	1	2	3	4	5
④ 子どもの遊び	1	2	3	4	5
⑤ 子どもを遊ばせる場所	1	2	3	4	5
⑥ 子ども友達付き合い	1	2	3	4	5
⑦ 子どもを預けられる施設や条件	1	2	3	4	5
⑧ 子どもの食事や栄養	1	2	3	4	5
⑨ 子どもの病気や発育・発達	1	2	3	4	5
⑩ 子どもの医療費	1	2	3	4	5
⑪ 子どもの将来	1	2	3	4	5
⑫ 子どもと接する時間	1	2	3	4	5
⑬ 家族の中での子育て観	1	2	3	4	5
⑭ 配偶者の子育てへの協力	1	2	3	4	5
⑮ 子育てに対する自信	1	2	3	4	5
⑯ 書籍やインターネット等の情報 どおりにならない	1	2	3	4	5
⑰ 子育てで自分の生きがいや仕事 との関係	1	2	3	4	5
⑱ 自分の話し相手や相談相手	1	2	3	4	5
⑲ 自分の時間、心のゆとり	1	2	3	4	5
⑳ 自分の健康	1	2	3	4	5
㉑ その他（	1	2	3	4	5

問18 宛名のお子さまを育てるうえで、日頃気になることを、どこにまたは誰に相談していますか。
(〇は3つまで)

1. 配偶者・パートナー

2. 祖父祖母等の親族

3. 友人や近隣の住民

4. 職場の同僚

5. 子育てサークル等の仲間

6. 幼稚園・保育施設・療育施設等や学校の保護者仲間

7. 宛名のお子さまやその兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設等

8. 区役所・支所子どもはぐくみ室

9. 児童福祉センター

10. 子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）

11. 児童館

12. こどもみらい館

13. 民生委員・児童委員、主任児童委員

14. 医療機関

15. 電話相談機関

16. インターネットの相談・質問サイト

17. その他（

18. 相談相手がいらない

問19 子育てに関する情報の入手方法を、行政と民間のそれぞれで回答ください。(○はそれぞれ2つまで)

	入手方法
	1. 宛名のお子さまやその兄弟姉妹が通っている学校・幼稚園・保育施設・療育施設等 2. 上記以外の学校・幼稚園・保育施設・療育施設等 3. 市民しんぶん 4. 京都市のホームページ (京都市情報館や各区・支所子ども支援センターのHP) 5. 京都市公式ソーシャルメディア (X(旧 Twitter)、YouTube、Facebook、アプリ) 6. 京都市子育てアプリ「京都はぐくみアプリ」 7. 京都市が発行する子育て応援パンフレット 8. 区役所・支所子どもはぐくみ教室の発行物等 9. 児童福祉センター (児童相談所・発達相談所) 10. こどもみらい館の発行物等 11. 子育て支援活動いきいきセンター (つどいの広場) 12. 親と子のこころのほっとライン 13. 児童館の発行物等 14. その他 ()
① 行政	
② 民間	1. 配偶者・パートナー 2. 祖父母等の親族 3. 友人や近隣の住民 4. 職場の同僚 5. 子育てサークル等の仲間 6. 幼稚園・保育施設等や学校の保護者仲間 7. 民生委員・児童委員、主任児童委員 8. 電話相談機関 9. 医療機関 10. テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等 11. インターネットの子育て情報サイト 12. その他 ()



問20(1) 宛名のお子さまは朝食・夕食を1週間に何日程度食べていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんど食べない	わからない
① 朝食	1	2	3	4	5
② 夕食	1	2	3	4	5

問20(2) 宛名のお子さまは、朝食・夕食を誰と食べることが多いですか。(複数回答可)

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい (兄弟姉妹)	本人(お子 さま)	その他 ()	わからない
① 朝食	1	2	3	4	5	6	7	8
② 夕食	1	2	3	4	5	6	7	8

問21(1) 京都市の子育て環境で、充実していると思うことは何ですか。(複数選択可)

1. 子どもの医療環境の充実 2. 教育環境 (学校・習い事等) の充実 3. 子ども向け体験型施設の充実 4. 子育て世帯に対する経済的支援の充実 (保育料の補助、医療費削減など) 5. 子育てに関する相談体制の整備 6. 近隣保育所等での預かり保育 7. 子どもの安心安全な活動場所・遊び場の確保 8. 地域や社会全体での子育ての応援体制 9. 親や子供向け地域コミュニティの活動が活発であること 10. その他 ※できるだけ具体的に御記入ください。 ()
--

問21(2) 住む場所を選ぶ際に何を重視しますか (○は3つまで)

1. 妊娠・出産の支援の充実 2. 育児休業制度の取得促進等の、仕事と子育ての両立支援の充実 3. 子育て環境の充実 4. 教育環境の充実 5. 文化芸術的環境の整備がなされていること 6. 安価な住宅の供給 7. 十分な広さや日照等、快適な住宅の供給 8. 公園等自然豊かな生活環境 9. 日常の買い物等で不便がないこと 10. 公共交通機関の充実 11. 就労先の選択肢が多いこと 12. その他 ※できるだけ具体的に御記入ください。 ()
--

(自由記述) 本アンケートや行政に期待する支援施策に関すること等で、ご意見がございましたらご記入ください。

アンケートはこれで終わります。ご協力ありがとうございました！

● 用語説明	
用 語	説 明
※ アンケートにご回答いただく際にご参照ください。	
学童クラブ事業	保護者の就労などで、放課後に保護する者がいない家庭の小学校就学児童を放課後に安全に保護し、かつ、健やかに育成する事業です。
子育て支援短期利用事業（ショートステイ）	児童を養育している家庭の保護者の方が病気、出産、冠婚葬祭、出張、育児疲れなどの理由で、家庭における児童の養育が一時的に困難となった場合に、その児童を施設において一時的に養育する事業です。（市内 2 箇所の乳児院、8 箇所の児童養護施設、2 箇所の母子生活支援施設、その他で実施）
子育て支援短期利用事業（トワイライトステイ）	児童を養育している家庭の保護者の方が仕事などの理由で、帰宅が夜間にわたるため、児童の家庭における児童の養育が一時的に困難となった場合に、その児童を施設に通所させて生活指導、食事の提供等を行う事業です。（市内 8 箇所の児童養護施設、2 箇所の母子生活支援施設、その他で実施）
こども虐待SOS専用電話（24時間・365日対応）	児童虐待をいち早く発見し、対応するため、また「子どもを叩いてしまいたい」といった悩みについてでも応じられるよう、児童虐待に関する通告・相談専用電話（801-1919）を設置しています。
子どもはぐくみ室（区役所・支所保健センター）	お住まいの地域の子どもと子育て家庭に関する総合相談窓口として、各区役所・支所に設置されています。切れ目のない支援や質の高い窓口サービスを提供し、自らも気づいておられないニーズも含めて、個々の家庭の状況やニーズに「気づき」、その過程が必要とする他の支援の利用に「つなぐ」、「子育て支援コンシェルジュ」として取組を行っています。
児童館	18歳未満の児童に健全な遊びの機会を提供し、健康の増進と情操を豊かにするために設置された児童福祉施設です。子育て家庭への支援や児童に関する地域の活動センターとしての取組等も行っています。
児童福祉センター（児童相談所）	児童福祉法に基づく行政機関として設置されている児童相談所を中心に、障害のある子どもへの療育等を行う各種施設などが併設されています。センターでは、子育ての不安、発達の違い、障害、不登校、非行、子どもを家庭で育てられないなど、子どもに関するさまざまな相談に応じています。また、児童虐待の相談や通告も受け付けています。（市内に 2 箇所）
地域子育て支援ステーション	身近な地域における子育て相談・ネットワークの拠点として、すべての保育園（所）・認定こども園・児童館を「地域子育て支援ステーション」に指定し、子育て講座等の開催や子育てに関する情報提供など、子育て中のご家庭に気軽に利用していただけるような様々な取組を行っています。

用 語	説 明
認可外保育施設	児童福祉法に基づく認可を受けていない保育施設の総称です。店舗において専ら顧客が一時的に利用するために設置されるもの等の一部の例外を除き、原則として京都市への設置の届出が必要です。
病児・病後児保育	病氣中・病後回復期のお子さんがいる方で、仕事等の都合で家庭での育児ができない方のために、医療機関に付設された施設で一時保育を行っています。（病児・病後児保育：市内 9 施設、病児保育：市内 1 施設）
ファミリーサポート事業	育児の援助を受けた人（依頼会員）と育児の援助をしたい人（提供会員）とが会員となって、保育施設までの送迎や、買い物などで外出の際にお子さんを預かるなど、市民の方が互いに助け合う子育て支援事業です。
放課後ほっと広場	児童館等による学童保育を実施していない地域において、保護者の就労等で園間留守になる家庭の低学年児のお子さんを、放課後安全に保護し、かつ、健やかに育成するために、小学校内で「学童クラブ機能」を有する事業を実施しています。
放課後まなび教室	学校施設を活用し、地域や保護者、学生等の参画を得ながら、放課後の子どもたちに、学習の習慣づけを図る「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」を提供する取組です。
民生委員・児童委員	学区ごとに選出され、担当する地域において、それぞれの委員が住民の方々の立場に立って、福祉に関する相談・援助活動に携わるとともに、地域の関係機関・団体やボランティアの方たちと協力して、地域福祉のネットワークづくりに努めています。 なお、民生委員・児童委員の中には、児童や子育てに関わる問題を専門的に担当する主任児童委員がいます。

（施設数等は、令和 5 年 4 月 1 日現在）